

タンザニア国  
村落給水事業実施・運営維持管理  
能力強化プロジェクト  
中間評価調査  
報告書

平成25年2月  
(2013年)

独立行政法人国際協力機構  
地球環境部

環境

JR

13-150



**タンザニア国  
村落給水事業実施・運営維持管理  
能力強化プロジェクト  
中間評価調査  
報告書**

平成25年2月  
(2013年)

**独立行政法人国際協力機構  
地球環境部**



## 序 文

日本国政府は、タンザニア連合共和国政府の要請に基づき、「村落給水事業実施・運営維持管理能力強化プロジェクトフェーズ2」を実施することを決定し、2011年5月に討議議事録（R/D）の署名をタンザニア連合共和国政府と取り交わしました。これに基づき、2011年8月から2014年7月までの3年のプロジェクトとして、独立行政法人国際協力機構が本プロジェクトを実施することになりました。

当機構は本プロジェクトの中間点にあたる2013年1月6日から同年1月26日までの21日間にわたり、当機構地球環境部国際協力専門員村上敏雄を団長とする中間評価調査団を派遣し、タンザニア連合共和国のカウンターパートと合同で活動実績ならびにその結果について評価を行いました。調査団は、その評価結果をミニッツに取りまとめ、タンザニア当局と署名交換を行い、その結果を報告書として取りまとめました。今後、本報告書が、他の協力の参考として、広く活用されることを願うものです。

最後に、調査にご協力とご支援をいただいた関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

2013年2月

独立行政法人 国際協力機構  
地球環境部  
部長 不破 雅実





調査対象地域位置図

## 略語一覧

略語	正式名称	和訳
BWO	Basin Water Office	流域管理事務所
CB&T	Capacity Building & Training	能力強化と訓練
CD	Capacity Building	能力強化
COWSO	Community Owned Water Supply Organization	住民所有給水組織
C/P	Counterpart	カウンターパート
CWSD	Community Water Supply Division	コミュニティ給水局 (現・地方給水局)
DWST	District Water and Sanitation Team	県給水衛生チーム
IA	Implementation Agency	実施機関
ID&CB	Institutional Development and Capacity Building	組織開発能力強化
JCC	Joint Coordination Committee	プロジェクト合同調整委員会
LGAs	Local Government Authorities	地方自治体
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力機構
MDGs	Millennium Development Goals	ミレニアム開発目標
MKUKUTA	Mkakati wa Kukuza Uchumi na Kuonda Umasikini Tanzania	成長と貧困削減のための国家戦略
M/M	Man Months	人月
MoW	Ministry of Water	水省
MTEF	Medium-Term Expenditure Framework	中期支出枠組み
NAWAPO	National Water Policy	国家水政策
NSGRP	National Strategy for Growth and Reduction of Poverty	成長と貧困削減のための国家戦略
O&M	Operation and Maintenance	維持管理
PDM	Project Design Matrix	プロジェクトデザインマトリックス
PMO-RALG	Prime Minister's Office-Regional Administration and Local Government	首相府地方自治省
PO	Plan of Operation	実施計画
R/D	Record of Discussion	討議議事録
RWST	Regional Water and Sanitation Team	州給水衛生チーム



## 評価調査結果要約表

<b>1. 案件の概要</b>		
国名：タンザニア連合共和国		案件名：村落給水事業実施・運営維持管理能力強化プロジェクト フェーズ2
分野：村落給水		援助形態：技術協力プロジェクト
所感部署：地球環境部		協力金額（評価時点総額見込み）：3.8 億円
協力期間	2011年8月-2014年7月 (3年間)	先方協力機関：水省
<b>2. 協力の背景</b>		
<p>タンザニアは、94万5千k㎡の国土に約4,160万人の人口を擁するが、その約82.5%にあたる約3,430万人が村落部に居住している。しかし、2010年時点で村落部における安全な水へのアクセスは58.7%に限られており、約1,420万人が汚染の恐れのある水源を使用している。</p> <p>タンザニア政府は、第2次国家水政策(2002年)に基づき、セクターワイドアプローチ(SWAP: Sector Wide Approach to Planning)のコンセプトをベースにした水セクター開発プログラム(WSDP: Water Sector Development Programme)を2007年2月に立ち上げた。WSDPの4コンポーネントの1つである「村落給水・衛生」では、2025年のTanzania Development Visionのゴールまでに地方部で90%の給水率を達成することを目標としており、そのための方策として、地方給水衛生プログラム(RWSSP: Rural Water Supply and Sanitation Programme)を定めている。</p> <p>WSDP/RWSSPでは、従来の中央政府主導の村落給水事業実施及び運営維持管理体制(水省が新規村落給水施設建設を行い、同省の指導の下、コミュニティが給水施設の運営維持管理を実施する体制)から、県にそれらの役割を委譲する地方分権化政策が定められており、それに沿った権限委譲が急速に進められた。そのため、WSDP/RWSSPを実施していくための県職員の村落給水事業の実施能力、及び給水施設の運営維持管理能力の強化が必要となっていた。</p> <p>このような背景から、2005年にタンザニア政府から我が国に対して技術協力プロジェクト「村落給水事業実施・運営維持管理能力強化計画(通称RUWASA-CAD、以下フェーズ1)」が要請された。フェーズ1は2007年9月から2010年8月までの3年間、パイロット4州(コースト州、ダルエスサラーム州、リンディ州及びムトラ州)において実施され、県給水・衛生チーム(DWST: District Water and Sanitation Team)を中心とした能力向上を行うための各種研修教材及び研修実施スケジュール等(以下「RUWASA-CAD研修パッケージ」)がまとめられ、これによる研修も実施された。</p> <p>一方で、WSDP/RWSSP自体については、全国のDWST等の給水計画の策定能力やバスケットファンドを用いた施設建設のためのプロジェクトマネジメント能力が不十分であることから進捗が遅れている。そのため、WSDP/RWSSP実施に携わる関係機関の能力強化の重要性が再認識されており、全国のDWST(県給水衛生チーム、District Water and Sanitation Team)、RWST(州給水衛生チーム、Regional Water and Sanitation Team)、BWO(流域管理事務所、Basin Water Office)が能力強化を行っていくための体制の構築、及びこれを支援する水省の能力強化が必要となっている。また「タ」国は地域によって自然条件、社会条件が異なるため、研修パッケージを各地域の特性に合わせたものへと改良する必要もある。</p> <p>本プロジェクトは、このような背景により「タ」国から2009年に提出された要請を受けて実施するものであり、これらの課題への対応に加え、パイロット地域の対象コミュニティで運営・維持管理までの支援を行うことにより、コミュニティレベルにおける実践に基づいた能力開発支援が行われることを目指す。</p> <p>JICAは2010年11-12月にかけて詳細計画策定調査団を派遣し、プロジェクトの概要についての合意がなされ、2011年5月23日に討議議事録(R/D)が署名された。このような状況を受け、本技術協力プロジェクトは、2011年8月から開始され、2014年7月までの3年間の予定で実施されている。</p>		
【協力内容】		

(1) 上位目標

DWST、RWST 及び BWO の村落給水・衛生事業に関する運営維持管理能力が強化される。

(2) プロジェクト目標

水省コミュニティ給水局 (CWSD: Community Water Supply Division) によって提供される全国の DWST、RWST 及び BWO を対象とした能力開発支援が強化される。

(3) アウトプット

1. RUWASA-CAD 研修パッケージが改善され、水省によって採用される。
2. 各地域の自然環境及び社会経済状況に適応した研修の補完教材が開発される。
3. 全国の DWST、RWST 及び BWO に対する水省 CWSD の研修支援体制が強化される。
4. 全国の DWST、RWST 及び BWO に対する水省 CWSD の研修支援体制が強化される。

(4) 投入 (2013 年 1 月時点)

日本側：総投入額 1.93 億円

- ・専門家派遣：6 名
- ・機材供与：約 0 円
- ・ローカルコスト負担：約 17,946 千円

タンザニア側：総投入額 972 千円億円

- ・カウンターパート配置：5 名
- ・土地・施設提供：専門家執務室
- ・ローカルコスト負担：17.6 百万 Tsh. (約 972 千円相当)

2. 評価調査団の概要

調査者	(1) 総括/村落給水	村上 敏雄	JICA 国際協力人材部	国際協力専門員
	(2) 調査企画	森口 隼	JICA 地球環境部水資源第二課職員	
	(3) 評価分析	中村泰徳	グローバルリンクマネジメント株式会社	
調査期間	2013 年 1 月 6 日-2013 年 1 月 26 日			評価種類：中間評価

3. 評価結果の概要

3-1. 実績の確認

【プロジェクト目標:水省コミュニティ給水局によって提供される全国の DWST、RWST 及び BWO を対象とした能力開発支援が強化される。】

プロジェクト目標の達成のためには、CWSD による CD 支援が高い満足度を受け (指標 1)、DWST、RWST 及び BWO がコミュニティ、DWST 及び RWST/DWST に対して RWSS 事業に関する指導を行う (指標 2、3 及び 4) 必要がある。

現時点で、パイロット地域のタボラ州ウユイ県及びシコンゲ県に対するアンケート調査において、DWST の CD に対するコミュニティ給水局の支援に関する満足度が 80%を超えている。しかし、本指標が目指すタンザニア本土の DWST、RWST 及び BWO の CD の実施に対するコミュニティ給水局による支援は、現時点で実施されていない。

パイロット地域において、プロジェクト実施前は、COWSO による給水施設の運営とメンテナンスをモニタリング・指導する DWST は存在しなかったが、タボラ州のウユイ県およびシコンゲ県の DWST が COWSO の給水施設運営・管理のモニタリングを開始した。その他 4 つのパイロット DWST においても、COWSO による運営とメンテナンスのモニタリングを開始する意向が示されている。

本プロジェクトにおける DWST の活動は、すべて RWST を介して行われてきたため、プロジェクト開始以前と比較すると、パイロット地域の DWST に対する RWST の指導件数は増加している。

パイロット地域の DWST は、プロジェクト開始以前から、水源開発や水利権獲得のため BWO に

対して指導を求めていたが、本プロジェクトにより実施された研修により、BWO と DWST/RWST 間のコミュニケーションがより円滑になり、指導件数は増えつつある。しかし、BWO および DWST/RWST は、異なる行政組織に所属しているため、BWO が DWST 及び RWST に対して指導を行うことの行政組織上の難しさも指摘された。

指標	内容	達成状況
1	水省コミュニティ給水局によって提供される能力開発支援にかかる DWST、RWST 及び BWO の満足度が、平均で XX%以上に達する。	パイロット地域においては、DWST 及び RWST の CD に対するコミュニティ給水局の支援に関する満足度が 80%を超している。しかし、本指標が目指すタンザニア本土の DWST、RWST 及び BWO の C の実施に対するコミュニティ給水局による支援は、現時点で実施されていない。
2	パイロット地域のコミュニティを対象とした DWST の指導件数が増加する。	タボラ州のウユイ県およびシコンゲ県で給水施設の運営・管理のモニタリングが COWSO によってはじめられた。その他 4 つのパイロット県においても、COWSO による運営とメンテナンスのモニタリングを開始する意向が示されている。
3	パイロット地域の DWST を対象とした RWST の指導件数が増加する。	DWST に対するすべての指導は、RWST を介して行われるため、パイロット地域の DWST に対する RWST の指導件数は、増加している。
4	パイロット地域の DWST 及び RWST を対象とした BWO の指導件数が増加する。	パイロット地域の DWST は、水源開発や水利権獲得のために BWO に対して指導を求めていることが確認された。しかし、BWO および DWST/RWST は、異なる行政組織に所属しているため、BWO が DWST 及び RWST に対して指導を行うことの難しさも指摘された。パイロット地域においては、本プロジェクトにより実施された研修により、BWO と DWST/RWST 間のコミュニケーションが円滑になったが、上記の行政組織上の問題により、BWO が DWST 及び RWST が村落給水衛生事業に係る指導を実施することは難しい状況は変わっていない。

**【成果 1 : RUWASA-CAD の研修パッケージが改善され、水省によって採用される。】**

アウトプット 1 の達成のためには、RUWASA-CAD 研修パッケージが PIM の添付資料として採用され (指標 1-2)、研修モジュラーガイドが DWST、RWST 及び BWO によって利用される (指標 1-1) 必要がある。

現時点では、「RUWASA-CAD 研修パッケージ」は、PIM の添付資料として採用されていない。一方、「RUWASA-CAD 研修パッケージ」を作成する際の参考資料である「RWSS プロジェクトサイクル」が PIM に取り込まれた。指標 1-2 に関しては、中間レビューまでに、プロジェクトメンバー内で、「RUWASA-CAD 研修パッケージ」ではなく、「RWSS プロジェクトサイクル」及び「研修モジュラーガイド」を PIM に取り込むことの方が指標として適切との合意を得ている。RUWASA-CAD 研修パッケージは、WSDP 実施機関の研修ニーズにより適宜変更されるもので、PIM の別添資料としてはふさわしくないと判断されたことが理由である。

一方、研修モジュラーガイドは DWST、RWST 及び BWO によって活用されていない。これは、研修モジュラーガイドは、DWST、RWST 及び BWO の CD 計画に含まれる研修を実施する際に用いら

れるが、CD 計画自体が実施されていないためである。

指標	内容	達成状況
1-1	コミュニティ給水局によって配布された研修モジュールガイドを活用する全国の DWST、RWST 及び BWO が XX%以上となる。	中間評価時点では、DWST（県給水衛生チーム、District Water and Sanitation Team）、RWST（州給水衛生チーム、Regional Water and Sanitation Team）および BWO（流域管理事務所、Basin Water Office）は、研修モジュールガイドを活用していない。研修モジュールガイドは、DWST、RWST 及び BWO の CD 計画に含まれる研修を実施する際に用いられるが、CD 計画自体が CD 計画実施のための唯一の財源である WSDP フェーズ 1 からの資金不足により実施できていない状況である。また、CD 計画自体が活用可能な資金を基に作成されておらず、実施可能な計画となっていない。
1-2	RUWASA-CAD 研修パッケージの RWSSP 事業実施マニュアル（PIM）添付資料に採用される。	現時点では、「RUWASA-CAD 研修パッケージ」は、PIM（プログラム実施マニュアル、Programme Implementation Manual）に取り入れられていない。一方、RUWASA-CAD 研修パッケージを作成する際の参考資料である「RWSS プロジェクトサイクル」が PIM に取り込まれた。プロジェクトメンバー内における協議の結果、本指標については、RUWASA-CAD 研修パッケージではなく、「RWSS プロジェクトサイクル」及び「研修モジュールガイド」を PIM に取り込むことの方が適しているということで合意している。理由として、RUWASA-CAD 研修パッケージは、WSDP 実施機関の研修ニーズにより変更されるもので、PIM の別添資料としてはふさわしくないと判断されたからである。

**【成果 2：各地域の自然環境及び社会経済状況に適応した研修の補完教材が開発される。】**

アウトプット 2 の達成のためには、タンザニア本土各地域の自然環境及び社会経済状況に適応した補完教材が作成され（指標 2-1）、同補完教材が利用者から高い満足度を得る（指標 2-2）必要がある。

現時点で、パイロット地域の自然環境及び社会経済状況などの地域特性を分析した結果、タンザニア本土各地域の地域特性に適応した補完教材が以下の通り作成された。

1. 水理地質予察図とその解説
2. 岩盤地域での地下水調査法の解説と調査事例の紹介
3. フッ素による健康被害の解説
4. フッ素濃度分布図
5. 給水率分布図、人口密度分布図

また、パイロット地域における研修受講者に対するアンケート調査の結果、研修参加者の 90%以上が、補完教材を「とても良い」または「良い」と評価した。

指標	内容	達成状況
2-1	XX の研修補完教材が作成される。	パイロット地域の自然環境及び社会経済状況などの地域特性を分析した結果、以下の 5 つの補完教材が完成した。

		1.水理地質予察図とその解説 2.岩盤地域での地下水調査法の解説と調査事例の紹介 3.フッ素による健康被害の解説 4.フッ素濃度分布図 5.給水率分布図、人口密度分布図
2-2	研修補完教材の内容に関する研修受講者の満足度がXX以上を達成する。	パイロット地域における研修受講者に対するアンケート調査の結果、研修参加者の90%以上が、補完教材を「とても良い」または「良い」と評価した。

**【成果3：全国のDWST、RWST及びBWOに対する水省コミュニティ給水局の能力開発支援体制が強化される。】**

アウトプット3の達成のためには、全国版の研修リソースインベントリがDWST、RWST及びBWOに使用され（指標3-1）、研修指導要領が作成され（指標3-2）、CWSDがDWST、RWST及びBWOのCD計画におけるRWSS関連研修のための予算配分のファシリテーションを行う（指標3-3）必要がある。

現時点では、タンザニア本土全域のDWST、RWST及びBWOが研修を実施する際に活用する資料である全国版の研修リソースインベントリは作成されていない。一方、2012年5月に研修指導要領の第1版ドラフトが完成している。

村落給水・衛生関連研修に必要な予算配分に関するコミュニティ給水局のファシリテーションに関しては、現時点ではタンザニア本土全域のDWST、RWST及びBWOに対して実施されていない。

指標	内容	達成状況
3-1	研修リソースインベントリを活用するDWST、RWST及びBWOの割合が全国でXX%以上となる。	現時点では、全国版の研修リソースインベントリは作成されていない。研修リソースインベントリは、DWST、RWST及びBWOがCD計画に含まれる研修を実施する際に活用する資料であるが、予算不足によりCD計画がプロジェクト終了時までには実施されることはないと推測されているためである。全国版のリソースインベントリは、WSDP全体のインベントリ作成方針が策定される2013年6月以降に作成する予定に変更されている。
3-2	2013年11月までに研修指導要領を完成させる。	2012年5月に研修指導要領の第1版ドラフトが完成した。第1版ドラフトには、モニタリング・評価のセクションを含めていないが、2013年6月にWSDPのモニタリング・評価フレームワークが作成される予定であり、その後に追加される予定である。
3-3	村落給水・衛生関連研修に必要な予算配分及び研修の実施方法に関して、コミュニティ給水局のファシリテーションを受ける全国のDWST、RWST及び	現時点では、村落給水・衛生関連研修に必要な予算配分に関して、コミュニティ給水局のファシリテーションを受けている全国のDWST、RWST及びBWOは存在しない。本指標におけるCWSD（コミュニティ給水局、Community Water Supply Division）のファシリテーションは、CD計画における研修を実施する際に行われるものであるが、CD計画実施のための

	BWOが増加する。	予算が不足していることやCD計画そのものが財源を確保せずに作成されたことが原因でCD計画が実施されていないためである。また、CWSO および DWST/RWST が、異なる省庁の傘下にあることや、BWO が、CWSO はなく WRD（水資源局、Water Resources Division）の傘下にあることなどタンザニアの行政組織においては、CWSO から DWST、RWST 及び BWO に対してファシリテーションを実施することが難しいことも原因である。
--	-----------	---

**【成果4:パイロット地域のコミュニティにおける給水状況の改善へ向けた取り組みが強化される。】**

アウトプット4の達成のためには、パイロット地域のDWSTがコミュニティに対して指導を行い（指標4-1）、コミュニティが給水施設利用料の回収率を上げる（指標4-2）必要がある。

現時点で、パイロット地域であるタボラ州の2つの県（ウユイ県およびシコンゲ県）でCOWSOによる給水施設の運営とメンテナンスのモニタリングが開始された。その他4つのパイロット県においても、COWSOによる運営とメンテナンスのモニタリングを開始する意向が示されている。

一方、DWSTによるCOWSOモニタリングは、タボラ州のパイロットCOWSOに対して開始されて間もないため、COWSOの給水施設利用料の回収率に関しては、進捗が見られなかった。モニタリングを開始したウユイ県で、COWSOからDWSTに提出される月報が2012年11月初めて提出されたところである。

指標	内容	達成状況
3-1	パイロット地域でDWSTによる指導を受けるコミュニティの数が増加する。	現時点では、パイロット地域のDWST及びRWSTに対する研修およびタボラ州の2つの県（ウユイ県およびシコンゲ県）でCOWSOによる給水施設の運営とメンテナンスのモニタリングが開始された。その他4つのパイロット県においても、COWSOによる運営とメンテナンスのモニタリングを開始する意向が示されている。
3-2	給水施設の料金徴収率が向上したパイロット地域の対象コミュニティの割合がXX%以上となる。	COWSOによるモニタリングは、タボラ州のパイロット対象COWSOで開始されて間もないため本指標は進捗が見られない。COWSOからDWSTに提出される月報が最近初めて提出されたところである。また、水の料金徴収については、天候などプロジェクトでは管理できないその他の要件の影響をうける事が判明した。

**3-2. 評価結果の要約**

**(1) 妥当性：概ね高い**

プロジェクトは、タンザニア、日本の政策、及びタンザニアのニーズに以下の通り合致している。

- i) 国家水政策（2002）及びWSDP（2005-2025）は、現時点で有効である。
- ii) 2012年6月に策定された日本の対タンザニア国別援助方針は、給水施設の開発とその運営管理のための人材育成を重点支援分野の一つに設定している。
- iii) WSDP実施における地方自治体や州政府の能力の低さは現時点でも指摘されており、WSDP

実施機関の能力強化は必要とされている。

- iv) プロジェクトのロジックは適切と考えられる。しかし、CD 計画が問題なく実施されることを前提としたプロジェクトデザインは、適切とは言えない。

## (2) 有効性：低い

中間レビューまでのプロジェクトの進捗状況から判断すると、プロジェクト目標が達成される可能性は低いと考えられる。

## (3) 効率性：低い

以下の投入、活動、アウトプットの実績から、中間レビュー時点では効率性は低いと考えられる。

- i) 日本側・タンザニア側からの投入の質、量、タイミングは、タンザニア側のプロジェクトメンバーの活動を除けば、概ね適切と判断される。
- ii) 本邦研修に関しては、参加者が帰国後プロジェクト実施に積極的に参加していることが確認された。
- iii) アウトプット3の活動は、計画通り実施されておらず、またアウトプット1, 3に関しては、中間レビュー時点までで達成されることが期待された成果を達成できていない。

## (4) インパクト：判断することが難しい

既存の指標では、上位目標の達成見込みを判断することは難しい。指標1は、指標の定義が明確ではないこと、指標2は、目標値の設定が現時点までにできないことが理由である。

## (5) 持続性：低い

持続性は、以下の観点から分析して低いと考えられる。

- i) 政策・制度面の持続性は高いと考えられる。WSDP（2005-2025）は、プロジェクト終了後も有効であり、プロジェクトによる成果の継続を支援することが期待される。
- ii) 組織面の持続性は低いと考えられる。タンザニア側プロジェクトメンバーの管理者レベルはプロジェクトに積極的に協力しておらず、タンザニア側の主要プロジェクトメンバーである村落給水局能力強化・研修課も積極的にプロジェクト活動に参加していない。また、DWSTやRWSTの主管省庁である地方自治省がプロジェクト実施に含まれていない。
- iii) 財政面の持続性は低いと考えられる。本プロジェクトの成果が財政面で持続するためには、CD計画実施予算が継続的に確保される必要がある。しかし、中間レビューまでは、CD計画実施のための予算不足や予算過多のCD計画がDWST、RWST及びBWOがCD計画を実施することを困難にし、CWSDが同計画における研修の実施を支援する機会を持っていない状況である。
- iv) 技術面の持続性は、概ね高いと考えられる。CWSDは、DWST、RWST及びBWOによる研修実施を支援できる技術知識をある程度有していると日本人専門家より評価されている。

### 3-3. 効果発現に関する貢献要因

#### (1) 計画内容にかかわること

- i) 特になし。

#### (2) 実施プロセスにかかわること

- i) 数名のタンザニア側プロジェクトメンバーが積極的にプロジェクト活動に参加した。

### 3-4. 効果発現に関する阻害要因

#### (1) 計画内容にかかわること

- i) CD 計画が実施されないリスクに対する対応を計画に含めていなかった。
- (2) 実施プロセスにかかわること
- i) 村落給水局の管理者レベルがプロジェクト活動の実施に協力的でなかった。
  - ii) WSDP により DWST、RWST 及び BWO の CD 計画実施のために配賦された予算が既存の CD 計画実施のためには十分でなかった。
  - iii) 既存の CD 計画が活用可能な予算に基づいて策定されたものではないため、CD 計画自体が財政的に実施不可能であった。
  - iv) CWSD と DWST/DWST の主管省庁が異なり、BWO がタンザニア側プロジェクトメンバーの中心である CWSD と水省の異なる部局に属しているため、CWSD が DWST、RWST 及び BWO に指導することが行政組織上難しい。

### 3-5. 結論

中間レビュー時点までに、RUWASA-CAD 研修パッケージの改善に係る活動（アウトプット 1）、補完教材の作成（アウトプット 2）、研修コンサルテーションガイドの第 1 ドラフトの作成（アウトプット 3）、及びパイロット地域における研修の実施（アウトプット 4）が概ね計画通り実施された。しかし、DWST、RWST 及び BWO による CD 計画実施予算の不足、CD 計画自体の予算過多が主な原因となり、アウトプット 1 及びアウトプット 3 の達成レベルが低かった。

5 項目評価に関しては、妥当性は概ね高いと考えられるが、効率性、有効性、持続性は、中間レビューまでのプロジェクト進捗状況を分析すると低いと考えられる。インパクトに関しては、上位目標の既存の指標ではその達成見込みの判断が難しい。

### 3-6. 提言

#### 1. DWST、RWST 及び BWO による CD 計画の実施（対象：日本人専門家及び水省）

本レビューにおいて、アウトプット及びプロジェクト目標を達成する阻害要因として CD 計画の未実施が確認された。プロジェクト後半では、CD 計画の実施を確保するために以下の活動を実施する必要がある。

- i. DWST、RWST 及び BWO が作成した CD 計画が入手可能な予算内で実施されるよう、プロジェクトはそれらの CD 計画を予算的に実行可能な内容に改訂することを支援する。
- ii. MTEF の 2012/13 年度及び 2013/14 年度の CD 計画実施のための WSDP 予算が計画通りに配賦されるよう、WSDP のテクニカルワーキンググループにおいて予算執行のフォローアップを行う。
- iii. DWST、RWST 及び BWO が CD 計画実施のために配賦された予算の一部を研修の実施に活用するよう、水省が行政指導を行う。
- iv. DWST、RWST 及び BWO が研修実施予算を確保できるよう、研修実施のための財源を拡大する。各機関は、WSDP 予算以外の財源として、各機関の歳入を研修に活用することを検討する。
- v. パイロットエリアでの研修を開始するためにタンザニア全土のリソースインベントリを作成する。

#### 2. タンザニア側プロジェクトメンバーのオーナーシップ（対象：タンザニア側プロジェクトメンバー）

本レビューにおいて、一部のタンザニア側プロジェクトメンバーのオーナーシップが低いことが、プロジェクトの有効性・持続性にマイナスの影響を与えていることが確認された。プロジェクト目標を達成するために、タンザニア側プロジェクトメンバーは、プロジェクト目標の達成のためにより積極的に参加する。特に幹部レベル及び CB&T の参加が必要である。



- i. タンザニア側プロジェクトメンバーの管理者レベルはプロジェクトの実施に協力する。
  - ii. コミュニティ給水局内の業務分担では、DWST、RWST による CD 計画実施のモニタリング・指導は、CB&T が担当することとなっており、本プロジェクトの実施においても同課から最低 1 名の職員を継続的に配置する。
3. タンザニアの行政機構に合わせたタンザニア側プロジェクトメンバーの配置（対象：タンザニア側プロジェクトメンバー）
- 本レビューにおいて、タンザニアの行政機構を考慮していないプロジェクト実施体制がアウトプット達成の阻害要因となっていることが確認された。プロジェクト後半はタンザニアの行政機構を考慮したプロジェクト実施体制とすることが必要である。
- i. CWSD が DWST 及び RWST にコンタクトすることを容易にするため、地方自治省（PMO-RALG）の水セクター調整グループのメンバーをタンザニア側プロジェクトメンバーに加える。
  - ii. 水資源局（WRD）は、タンザニア側プロジェクトメンバーの一部局として位置づけられているが、プロジェクトが支援する BWO は WRD の傘下であり、WRD に関しても、CWSD と並んでプロジェクト実施の中心的部局としてとらえる。
4. パイロット地域における COWSO の運営状況モニタリングの継続（対象：日本人専門家、タンザニア側プロジェクトメンバー及びパイロット地域の DWST）
- i. 既存の PDM における COWSO の運営状況を測る指標（給水施設使用料に係る指標）は、指標の目標を設定することが困難なため指標の変更を提言するため、PDM 上は COWSO の運営状況をモニタリングする必要がなくなるが、パイロット地域の DWST による COWSO 支援の COWSO の運営状況に対する影響を把握するために、パイロットエリアにおける COWSO の運営状況を継続してモニタリングする。

### 3-7. 教訓

1. 本中間レビューでは、日本側・タンザニア側で合意した最新の PO (2011 年 5 月 23 日版 POver.1) を基に活動の進捗状況の評価を行ったが、関係者間で最新ととらえる PO が異なっていた。本中間レビューを機に、PO ver.2 を作成し、プロジェクト関係者全員で共通する PO を基にプロジェクト実施を管理することが必要である。
2. 本プロジェクトは、WSDP バスケットファンド予算の活用を想定した技術協力プロジェクトであるが、同バスケットファンド予算の拠出が想定通りなされなかったため、一部のプロジェクト活動が実施できない状況であった。バスケットファンド予算を活用した技術協力プロジェクトは、想定通り予算が拠出されれば、少ない投入で大きい成果を達成することが可能であるが、バスケットファンド予算にプロジェクトの成果が大きく左右される側面を持っている。そのため、バスケットファンド予算の活用を想定した技術協力プロジェクトを形成する際は、バスケットファンド予算が確実に拠出されることを如何に見極めるか、またバスケットファンド予算が拠出されない場合のリスクを如何に担保するかを十分に検討する必要がある。
3. 本中間レビューは、クリスマス、正月直後の 1 月 6 日から実施されたため、評価スケジュールに関してタンザニア側カウンターパートとのコミュニケーションが事前にとれず、評価スケジュールが確定したのは先行調査団員が現地に着いた後だった。今回は、カウンターパート側

の配慮で臨機応変にインタビューが設定されたが、短い調査期間を効果的に活用するために、現地調査の時期は長期休暇の直後には設定しないことが望ましい。

# 目 次

序 文	
位置図	
略語集	
評価調査結果要約表	
	ページ
第 1 章 中間評価調査団の派遣	1-1
1-1 調査の経緯と目的	1-1
1-2 調査団の構成	1-2
1-3 調査日程	1-3
1-4 プロジェクトの概要	1-3
1-5 団長所感	1-5
第 2 章 評価の方法	2-1
2-1 PDM	2-1
2-2 評価デザインの検討と調査項目・設問	2-1
2-3 データ収集方法	2-2
2-4 評価 5 項目による分析	2-2
第 3 章 プロジェクトの成果・実績	3-1
3-1 投入	3-1
3-2 成果の達成状況	3-2
3-3 プロジェクト目標の達成状況	3-4
3-4 上位目標の達成状況	3-5
3-5 活動	3-5
3-6 実施プロセス	3-6
第 4 章 評価結果	4-1
4-1 妥当性	4-1
4-2 有効性	4-1
4-3 効率性	4-2
4-4 インパクト	4-2
4-5 持続性	4-2
第 5 章 提言・教訓	5-1
5-1 結論	5-1
5-2 PDM の改訂	5-1
5-3 提言	5-1
5-4 その他提言・教訓	5-3

別添資料 1 Minutes of Meeting .....A1-1  
別添資料 2 評価グリッド .....A2-1

## 第1章 中間評価調査団の派遣

### 1-1 調査の経緯と目的

タンザニアは、94万5千k m<sup>2</sup>の国土に約4,160万人の人口を擁するが、その約82.5%にあたる約3,430万人が村落部に居住している。しかし、2010年時点で村落部における安全な水へのアクセスは58.7%に限られており、約1,420万人が汚染の恐れのある水源を使用している。

タンザニア政府は、第2次国家水政策(2002年)に基づき、セクターワイドアプローチ(SWAP: Sector Wide Approach to Planning)のコンセプトをベースにした水セクター開発プログラム(WSDP: Water Sector Development Programme)を2007年2月に立ち上げた。WSDPの4コンポーネントの1つである「村落給水・衛生」では、2025年のTanzania Development Visionのゴールまでに地方部で90%の給水率を達成することを目標としており、そのための方策として、地方給水衛生プログラム(RWSSP: Rural Water Supply and Sanitation Programme)を定めている。

WSDP/RWSSPでは、従来の中央政府主導の村落給水事業実施及び運営維持管理体制(水省が新規村落給水施設建設を行い、同省の指導の下、コミュニティが給水施設の運営維持管理を実施する体制)から、県にそれらの役割を委譲する地方分権化政策が定められており、それに沿った権限委譲が急速に進められた。そのため、WSDP/RWSSPを実施していくための県職員の村落給水事業の実施能力、及び給水施設の運営維持管理能力の強化が必要となっていた。

このような背景から、2005年にタンザニア政府から我が国に対して技術協力プロジェクト「村落給水事業実施・運営維持管理能力強化計画(通称RUWASA-CAD、以下フェーズ1)」が要請された。フェーズ1は2007年9月から2010年8月までの3年間、パイロット4州(コースト州、ダルエスサラーム州、リンディ州及びムトワラ州)において実施され、県給水・衛生チーム(DWST: District Water and Sanitation Team)を中心とした能力向上を行うための各種研修教材及び研修実施スケジュール等(以下「RUWASA-CAD研修パッケージ」)がまとめられ、これによる研修も実施された。

一方で、WSDP/RWSSP自体については、全国のDWST等の給水計画の策定能力やバスケットファンドを用いた施設建設のためのプロジェクトマネジメント能力が不十分であることから進捗が遅れている。そのため、WSDP/RWSSP実施に携わる関係機関の能力強化の重要性が再認識されており、全国のDWST(県給水衛生チーム、District Water and Sanitation Team)、RWST(州給水衛生チーム、Regional Water and Sanitation Team)、BWO(流域管理事務所、Basin Water Office)が能力強化を行っていくための体制の構築、及びこれを支援する水省の能力強化が必要となっている。また「タ」国は地域によって自然条件、社会条件が異なるため、研修パッケージを各地域の特性に合わせたものへと改良する必要もある。

本プロジェクトは、このような背景により「タ」国から2009年に提出された要請を受けて実施するものであり、これらの課題への対応に加え、パイロット地域の対象コミュニティで運営・維持管理までの支援を行うことにより、コミュニティレベルにおける実践に基づいた能力開発支援が行われることを目指す。

JICA は 2010 年 11-12 月にかけて詳細計画策定調査団を派遣し、プロジェクトの概要についての合意がなされ、2011 年 5 月 23 日に討議議事録 (R/D) が署名された。続いて、プロジェクトの中間点にあたる 2013 年 1 月 6 日から同年 1 月 26 日までの 21 日間にわたり、中間評価調査団を派遣し、タンザニア連合共和国のカウンターパートと合同で活動実績ならびにその結果について評価を行った。調査団は、その評価結果をミニッツに取りまとめ、同年 1 月 24 日にミニッツに署名した。

## 1-2 調査団の構成

Name 氏名	Duty 担当分野	Occupation 所属先	Period (in-out)
Mr. Toshio MURAKAMI 村上 敏雄	Leader/Rural Water Supply 総括/村落給水	Senior Advisor, JICA JICA 国際協力専門員	Jan 6 - Jan 26
Mr. Jun MORIGUCHI 森口 隼	Cooperation Planning 調査企画	Water Resources Management Division 2, Global Environment Department, JICA JICA 地球環境部水資源第二課	Jan 6 - Jan 26
Mr. Yasunori NAKAMURA 中村 泰徳	Evaluation Analysis 評価分析	Global Link Management グローバルリンクマネジメント 株式会社	Jan 6 - Jan 26

### 1-3 調査日程

2013年1月6日から1月26日の期間、中間評価を行った。詳細は、以下の通り。

Date			Mr. Yasunori NAKAMURA	Mr. Toshio MURAKAMI/ Mr. Jun MORIGUCHI
1	6-Jan	Sun	PM : Narita ( 22:00 ) →Dubai ( 05:00 )	
2	7-Jan	Mon	Dubai ( 10:15 ) →Dar Es Salaam ( 14:55 )	
3	8-Jan	Tue	AM: Meeting w/JICA Tanzania Office and JICA Experts PM: Courtesy Call on MoW	
4	9-Jan	Wed	AM: Document Review PM: Interview (Ms. Kinbute, Ms. Mbowe, Mr. Mweta)	
5	10-Jan	Thu	AM: Interview (Ms. Kirenga, Ms. Mbowe, Mr.Mweta)	
6	11-Jan	Fri	AM: Interview (Mr. Baraka)	
7	12-Jan	Sat	Drafting of Mid-Term Review Report	
8	13-Jan	Sun	Drafting of Mid-Term Review Report	
9	14-Jan	Mon	AM: Drafting of Mid-Term Review Report PM: Meeting with Japanese experts	PM : Narita ( 22:00 ) →Dubai ( 05:00 )
10	15-Jan	Tue	AM : Drafting of Mid-Term Review Report 18:00-19:30 Meeting w/ Survey Mission	PM : Dar Es Salaam (14:55) 18:00-19:30 Meeting w/ Survey Mission
11	16-Jan	Wed	9:30-10:00 Meeting w/JICA Tanzania Office 11:00-11:30 Courtesy Call on MoW PM: Meeting w/ JICA Expert	9:30-10:00 Meeting w/JICA Tanzania Office 11:00-11:30 Courtesy Call on MoW PM: Meeting w/ JICA Expert
12	17-Jan	Thu	AM:Dar Es Salaam (11:00)→Mwanza (12:30) PM:Move to Nzega	AM:Dar Es Salaam (11:00)→Mwanza (12:30) PM:Move to Nzega
13	18-Jan	Fri	Site Visit in Tabora (Sikonge District, Uyuni District)	Site Visit in Tabora (Sikonge District, Uyuni District)
14	19-Jan	Sat	AM:Move to Mwanza PM:Mwanza (20:40)→Dar Es Salaam (22:10)	AM:Move to Mwanza PM:Mwanza (20:40)→Dar Es Salaam (22:10)
15	20-Jan	Sun	AM: Drafting of Mid-Term Review Report PM: Drafting of Mid-Term Review Report, Internal Meeting	AM: Drafting of Mid-Term Review Report PM: Drafting of Mid-Term Review Report, Internal Meeting
16	21-Jan	Mon	AM: Discussion w/CP on Mid-Term Review Report PM: Discussion w/CP on Mid-Term Review Report	AM: Discussion w/CP on Mid-Term Review Report PM: Discussion w/CP on Mid-Term Review Report
17	22-Jan	Tue	AM: Discussion w/CP on Mid-Term Review Report 14:00-16:00 Discussion with GIZ on CD plan & implementation	AM: Discussion w/CP on Mid-Term Review Report 14:00-16:00 Discussion with GIZ on CD plan & implementation
18	23-Jan	Wed	AM: Discussion w/CP on Mid-Term Review Report PM: Preparation for JCC and Mid-Term Review Report Printing	AM: Discussion w/CP on Mid-Term Review Report PM: Preparation for JCC and Mid-Term Review Report Printing
19	24-Jan	Thu	AM: JCC, Signing of M/M PM: Reporting at JICA and EoJ	AM: JCC, Signing of M/M PM: Reporting at JICA and EoJ
20	25-Jan	Fri	AM: Report writing PM: Dar es Salaam ( 16:45 )	AM: Report writing PM: Dar es Salaam ( 16:45 )
21	26-Jan	Sat	AM : Dubai ( 02:55 ) PM : Narita ( 17:20 )	AM : Dubai ( 02:55 ) PM : Narita ( 17:20 )

### 1-4 プロジェクトの概要

中間評価時点で使用されている PDM (Version 1) で定められている上位目標、プロジェクトの目標、成果および活動は以下の通りである。

#### 【上位目標】

村落給水・衛生 (RWSS) 事業に係る全国の県給水衛生チーム (DWST)、州給水衛生チーム (RWST) 及び流域管理事務所 (BWO) の村落給水・衛生事業に関する運営管理能力が強化される。

#### 【プロジェクト目標】

水省コミュニティ給水局によって提供される全国の DWST、RWST 及び BWO を対象とした能力開発支援が強化される。

#### 【成果】

1. RUWASA-CAD 研修パッケージが改善され、水省によって採用される。
2. 各地域の自然環境及び社会経済状況に適応した研修の補完教材が開発される。

3. 全国のDWST、RWST及びBWOに対する水省コミュニティ給水局の能力開発支援体制が強化される。
4. パイロット地域のコミュニティにおける給水状況の改善へ向けた取り組みが強化される。

#### 【活動】

- 0-1. ベースライン調査及びインパクト調査を行う。
- 1-1. RUWASA-CADフェーズ1対象県でのRWSSPの実施状況、水省およびRUWASA-CADフェーズ1で開発された研修パッケージ（RUWASA-CAD研修パッケージ）の実践状況およびWSDPの実施状況を調査する。
- 1-2. 活動1-1の調査結果に基づきRUWASA-CAD研修パッケージを検証する。
- 1-3. ユーザーフレンドリーな視点を踏まえて、RUWASA-CAD研修パッケージを修正する。
- 1-4. DWST、RWSTおよびBWOを対象にして、RWSSPの協力・連携体制やRUWASA-CAD研修パッケージの修正版を共有するためのワークショップを開催する。
- 1-5. 研修計画の作成・実施に係る主要ツールとして、RUWASA-CAD研修パッケージの制度化を奨励する。
- 2-1. 自然環境、社会経済状況などの観点から、タンザニア本土を地域ごとの特性に応じて分類する。
- 2-2. 設定された選択基準に基づいて、RUWASA-CADフェーズ1の地域特性とは異なるパイロット地域を選定する。
- 2-3. 各地域の特性に応じた研修カリキュラムおよび補完教材を作成する。
- 2-4. パイロット地域での研修（活動4-2）を通じて抽出された情報・データを取りまとめる。
- 2-5. 全国展開に向けて、研修カリキュラムおよび補完教材を更新する。
- 3-1. RUWASA-CADフェーズ1の研修リソースインベントリを基に研修リソースインベントリ全国版を作成・改善する。
- 3-2. DWST、RWSTおよびBWOによって策定された研修計画を検討し、課題を抽出する。
- 3-3. 研修計画の策定・実施に必要な研修指導要領を策定し、活動4-1を通じて修正・更新する。
- 3-4. DWST、RWSTおよびBWOによる研修計画の実施に必要な予算措置、スケジュールなどを含むコミュニティ給水局の年間研修管理計画を作成・改善する。
- 3-5. 同研修管理計画に沿って、全国のDWST、RWSTおよびBWOによる研修をモニタリング・監督する。
- 3-6. 上記手順を取りまとめた研修管理のための業務実施マニュアルを改善する。
- 3-7. WSDP関係機関を対象にして、研修指導要領、年間研修管理計画および業務実施マニュアルを共有するためのワークショップを開催する。
- 4-1. パイロット地域のDWST、RWSTおよびBWOに対する研修計画実施のコンサルテーションを行う。
- 4-2. 活動4-1の能力開発コンサルテーションに基づき、パイロット地域のDWST、RWSTおよびBWOを対象にした研修を行う。
- 4-3. パイロット地域のコミュニティによる給水施設の運営・維持管理に係るDWSTの指導およびモニタリング活動を支援する。
- 4-4. 全国展開のために、同コミュニティでのモニタリング活動から抽出された経験、結果および教訓をまとめ、文書化する。
- 4-5. 全国のDWSTを対象として、給水施設の運営・維持管理状況および上記モニタリング結果を共有するためのワークショップを開催する。



## 1-5 団長所感

### (1) 本プロジェクトの WSDP への好影響

本プロジェクトの団員が WSDP の「地方給水・衛生」と「組織開発・能力強化」の 2 つのテクニカルワーキンググループ (TWG) に参加しており、プロジェクト内だけの活動であったものが、WSDP 全体の活動に影響を与えるようになってきている。具体的には、TWG において WSDP の実施マニュアルである PIM 改訂の必要性についての議論が大きくなってきている。本プロジェクトにおいて現在 PIM 利用状況調査を行っており、今後その結果を用いて TWG で PIM 改訂について働きかける予定となっている。これらの活動は進捗が遅れている WSDP の改善に大いに貢献するものであり、継続することが望ましい。

### (2) 流域管理事務所と地方行政との関係の強化への好影響

給水事業において水源の確保は根源であり、水資源ポテンシャルに関する情報や水資源の管理が重要であるが、流域管理事務所 (BWO) と州給水衛生チーム (RWST) 及び県給水衛生チーム (DWST) との連携が、縦割り行政の影響でこれまで殆どとられてこなかった。本プロジェクトのパイロット地域における活動により、BWO と地方行政との連絡が頻繁に行われるようになってきている。水資源調査や水資源管理に関しては日本に技術的優位性のある分野であり、JICA はタンザニア国においてこれまで多くの地下水・水資源の調査を行っている。蓄積された知見を活かして主導していけるアプローチと思われる。

### (3) PDM の指標設定及び改訂

詳細計画策定調査の情報により作成されたプロジェクト開始前の PDM に、幾つか問題を抱えているにもかかわらず、中間評価まで全く手が付けられていない。指標の数値については、ベースライン調査結果を受けて記入することになっていたはずであるが、未記入のままとなっていた。また、ベースライン調査の結果からは入手できない指標が幾つかあるが、指標の変更が全く行われていなかった。中間レビューにおいて PDM の修正案を作成したが、少なくとも指標に関しては、一般にプロジェクト開始後 6 ヶ月以内には修正されるべきものであり、本来は中間レビューが行うようなものではないのではなからうか。

また、中間レビューは、プロジェクトが効果発現に向けて順調に実施されているかを評価し、プロジェクト改善に関する提言を行うものである。提言を受けた実際の改訂作業については、より詳細な情報を有しているプロジェクト実施者の積極的な取組が望まれる。

### (4) プロジェクト進捗の遅延

これまでに実施された CD 計画はなく、CD 計画が実施されていないことが本プロジェクト進捗（特に成果 3）の大きな阻害要因となっている。ただし、作成が遅れている研修リソースインベントリや研修指導要領については、遅延の理由として CD 計画実施の見込みがないため今直ぐ必要でないことと、C/P の協力が得られていないことが挙げられているが、これらは本来 CD 計画実施前に計画段階のコンサルテーションから必要なものであり、作業を急ぐ必要がある。

### (5) CD 計画関連のガイドラインやマニュアル

CD 計画の策定・実施・モニタリング等に係る基本的な理念や方針は、公式文書となっている 2008 年に GIZ 支援により策定された「CD フレームワーク」と「CD フレームワーク実施促進ガ

イドライン（CD ガイドライン）」に示されており、CD 計画の作成手法は CD ガイドラインに示されている。基本理念は、CD 予算が事務所の整備や車両等のハード中心に使われるのを防ぎ、受益者が真に必要としている能力強化訓練に使われることにあり、自己アセスによる計画策定手法がとられている。また、CD 計画を各組織の事業計画（3 ヶ年中期予算計画）や年間予算に取り込むという自己資金による実施が示されている。これらの基本理念は踏襲すべきものであり、CD フレームワークと CD ガイドラインに大きな問題は見られない。ただし、これらは GIZ が注力している都市給水事業体の CD を想定して作成されたものと思われ、全ての給水分野に適用されているが地方の給水関連機関にとっては難解な部分や困難な部分がある。都市給水事業体の場合は、地方給水より高い技術力と資金管理能力が求められるが、水道運営の手法はほぼ確立しており、水道料金収入による資金の裏付けがある他、もともと能力がある程度あり、CD 計画の作成・実施は比較的容易と思われる。地方給水の場合は、地方分権化により立案だけが任せられ財源が委譲されておらず、運営・維持管理は受益者コミュニティが負っているため、そのままの適用は困難と思われる。本プロジェクトにおいては水省のコミュニティ給水局が使用する研修指導要領を作成中であるが、CD ガイドラインの補完資料として、CD ガイドラインをより噛み砕いた、地方給水分野の CD 計画作成者側が使うマニュアルや参考見本のようなものがあれば有効と思われる。また、CD ガイドラインと CD モジュールガイドや RUWASA-CAD 研修パッケージとの関連性が低いことが、CD 計画を実施に向かわせる障害のひとつと思われるので、これらのガイドラインやマニュアルを作成・改訂する場合には考慮すべきである。

#### (6) CD 計画の予算と実施

水省のコミュニティ給水局が CD ガイドラインを用いて関係組織に対する CD 計画策定支援を行い、2010 年 4 月までに全関係機関から CD 計画が提出された。しかし、予算不足のために、地方給水分野においてはこれまでに実施された CD 計画はない。

WSDP による CD 計画実施のための予算は、WSDP の中間レビュー（2010 年 3 月最終報告書）を受けて 2010 年 11 月作成（2011 年 6 月改訂）された再構築計画（Restructuring Plan）では、WSDP フェーズ 1 の残りの 2 年間（2010 年 7 月～2012 年 6 月）の予算が約 420 万米ドルとなっていた。その後、進捗の遅れによりフェーズ 1 が 2014 年 6 月までに延長されることになり、2012 年 6 月の MTEF（Medium Term Expenditure Framework）では、WSDP の残り 2 年間（2012 年 7 月～2014 年 6 月）の CD 計画実施予算が約 120 万米ドルに削減された。予算執行については、地方自治体への WSDP 予算交付報告書によると、2011/12 年度第 2 四半期に各県に 50～200 万 Tsh（総額約 1 億 1,200 万 Tsh＝約 7 万米ドル）の予算が 1 回交付されたのみとなっている。そのほとんどは CD 計画の実施には使われず、水省が全国の自治体に対して行った研修（例えば MIS 研修）参加のための手当（日当宿泊費）に使われたようである。

WSDP による CD 計画実施のための予算が減っている原因は、CD 計画の実施に戸惑っている間に給水施設建設の予算が想定以上に膨らんだことと、CD 全体の予算の多くが事務所の建設、事務所の設備や車両の購入、人員の雇用等に使われたことによるものと思われる。

一方、パイロット県であるタボラ州のシコンゲ県が作成した CD 計画の費用は 20 億 Tsh となっており、全国の予算で 1 県分しかまかなえないことになる。シコンゲ県の自己資金（地方自治省関連予算）による CD の年間予算は約 1,000 万 Tsh となっており、水・衛生分野の CD 計画が県の

予算規模からかけ離れたものになっている。従って、適正な予算規模にする指針が必要である。また、たとえ予算が確保されたとしても、研修内容が不明確であったり、組織の能力強化研修と関係のない用途が不適格なものが CD 計画に含まれており、実施されるのは難しい状況にある。

水省は、CD 計画が実施されていない原因を一貫して予算処置の問題とし、CD 計画の修正には極めて消極的であったが、コミュニティ給水局の人事異動により現在では CD 計画を実施可能なものに修正する必要性を良く理解しており、C/P の意識は向上している。

以上の様に、CD 計画が実施されない原因としては、WSDP からの CD 予算の不足とされがちであるが、作成された CD 計画が予算規模、研修内容の適切性、具体性等の面で実施可能なものではなく、現実味のないものとなっている。研修指導要領が完成していないことや人材不足による地方給水局の支援能力が不十分なこともあろう。また、水省の指導で急遽 CD 計画を作成させたため、真の必要性を各組織が感じておらず、CD 計画作成の前に意識付け作業や情報提供が不足していたと思われる。このように、資金以外にも阻害要因があると思われるので、CD 計画が実施されないことについて何が原因かきちんと論理的に問題分析を行い、少なくとも CD 計画を実施可能なものに修正する方策を検討すべきである。具体的な活動としては、まずはリソースインベントリや研修指導要領を早急に完成させ、それらを用いて本プロジェクトのフェーズ 1 及びフェーズ 2 のパイロット地域の CD 計画を On the Job トレーニングで実施可能なものに修正することにより地方給水局の支援能力を高め、その他全国の CD 計画の修正に関しては地方給水局が主導して行うことで C/P の理解を得た。

#### (7) 活動（手段）と目的

プロジェクトの進捗に問題を抱えている場合、活動の達成が目的になってしまいがちである。何のために活動を実施し、どうすれば効果的な活動になるのか、これからは中身の議論も深める必要がある。先方との協議において CD 計画の修正・実施や予算処置等の活動や投入の議論が中心となりがちであり、C/P に対しては目先の活動や手段だけでなく、プロジェクトひいてはタンザニアの地方給水が何を目指すべきか、目的を忘れないように導くよう留意すべきである。

#### (8) 地方給水の運営・維持管理

地方給水については、未だ一般化できる確立した運営・維持管理の手法というのではなく、地域ごとの自然条件、社会条件、制度・習慣等に合わせたアプローチが必要となる。地域にあった有効な手法を見出すには試行錯誤が必要であり、決められた方針を試験や選択支や遷移段階なしで一律全国に広めるという今までの WSDP のアプローチは、地方給水には向かない部分がある。実施したうえで、問題点を抽出し、方策を見直すという柔軟なアプローチが必要である。施設建設や調達関連の研修に関しても、本プロジェクトのフェーズ 1 で作成したもので良しとするのではなく、WSDP のフェーズ 1 が大きく遅れた原因を整理・分析し、改善点はないかもっと検討すべきでなかろうか。ただし、WSDP のフェーズ 1 においては、中間レビューの結果を受けて再構築が行われ、終了時評価においてはフェーズ 2 に向けた PIM の改訂が見込まれている。WSDP の実施マニュアルである PIM は完全に固定したものではないので、今後も本プロジェクトやその他の JICA 案件を通じ必要な修正案を提言して行く事が望まれる。

#### (9) 地方給水分野の基本政策の変遷

1991年国家水政策では、ハンドポンプや保護湧泉などのレベル1給水施設については村役場の水管理委員会が維持管理の責務を負った。レベル2についても水管理組合等のコミュニティが運転と軽微な修理の責任を負うが、3000人以上の給水施設については州の水事務所が、巨大な広域給水施設については国が運営・維持管理を行うとされた。特に地方のパイプ給水については国の出先機関の行政が運営・維持管理を行い続けたので、水は無料という習慣や稼働状況の悪さが継続した。

2002年国家水政策で、地方分権化、コミュニティによる所有権、コミュニティによる運営・維持管理、県による支援、需要対応型アプローチ（住民要請主義）、民間によるサービス提供等の2007年7月から開始されたWSDPに繋がる基本理念が決められている。

2002年国家水政策の実施のために必要となる各機関の役割が2009年の給水・衛生法により規定された。同法により、コミュニティにCOWSO（Community Owned Water Supply Organization）を設立することになり、コミュニティが施設の所有権を有し運営・維持管理を行うこととなった。また、水料金による運営・維持管理が示されているが地方行政からの補助金は排除されていない。COWSOはAssociation、Cooperative、NGO、Company等の法人組織であればよく、運営のService Providerへの委託が可能とされ民営化が促進されているが、実体はこれまでの住民組織とあまり変わっていない。これまで実質的に曖昧であった施設の所有権について、コミュニティ所有であることを組織名により明確化した以外、大きな変化は見られないように思われる。ただし、水料金による運営が基本となっているので、料金徴収が人件費を賄えないような利用者の少ないハンドポンプのような施設については、一律にCOWSO化は難しく工夫が必要であろう。

#### (10) 県によるコミュニティ（COWSO）に対する活動

本プロジェクトで水省地方給水局の支援能力を強化すれば、上位目標としてRWST、DWST、BWOの給水・衛生事業の運営・維持管理能力が増強されることになるが、最終的にはWSDPの目標である住民の給水状況が良くならなければ何の意味もない。そこで、本プロジェクトの成果4では、パイロット地域のコミュニティにおける給水状況の改善へ向けた取り組みが強化されるとしており、コミュニティレベルでのモニタリングを通じて本プロジェクトの活動や研修内容やマニュアル・教材等をより有効なものに修正することが望ましい。上記の様に地方給水では試行錯誤が必要であり、残りの期間が約1年半であることを考えると、パイロット地域での活動を急ぐ必要がある。

一方、RUWASA-CADでは県職員の研修までであり、県がCOWSOやコミュニティに対して行う指導に関しては、現在PIMおよびRUWASA-CADにも教材がなく、給水施設建設における住民啓発活動の中で、契約したローカルコンサルが自前の教材を用いて実施している状況である。県に対する研修資料については、コミュニティレベルに理解してもらうには難解な法制度や資料があるので、県がコミュニティに対して使う教材については、スワヒリ語化や視覚化を含めた教材の開発が必要ではなかろうか。これらを、本プロジェクトにおいて作成するのはスコープ外であるので、パイロットCOWSOのモニタリングを通じて得た知見をもとに問題を分析し、給水状況を改善するために何が必要かを考え、これらをPIM改訂に含める働きかけは行うべきである。

#### (11) 現地踏査結果

今回の調査では、タボラ州の2箇所のCOWSOを訪問し、聞き取り調査を行った。

Uyui 県には30箇所のCOWSOがあるが、2012年11月からモニタリングを開始し月報が出ているのはパイロットCOWSOのIlonguloの1箇所から1回のみとなっている。IlonguloのCOWSOは、水利用者組合(Association)組織で、給水施設は深井戸を水源とし送水管路42km、24箇所の公共水栓で3村の約6,000人に給水している。公共水栓ごとに水利用者グループがあり、当初は水栓あたり25,000Tsh/月の定額制で料金徴収できず、20Tsh/20ℓの従量制料金で売上の10%を水利用者グループの収益としたことで、料金収入で運営できるようになった。口座には通常500,000Tshがあるが、修理費用としては十分ではない。水源の井戸が約20km離れており、運転管理のための毎日の移動が負担となっている。

Sikonge 県には6箇所のCOWSOがあり、5箇所が形成中となっている。パイロットCOWSOのIgunauapinaは、泉を水源とした1977年建設のポンプ送水システムで、26箇所の公共水栓と14箇所の各戸接続で3村の約4,000人に給水している。水料金は公共水栓が50Tsh/20ℓの従量制、各戸接続が5,000Tsh/月の定額制となっている。ディーゼルエンジンが故障しており10月から給水していない。修理に時間を要している理由はスバアパーツの調達にあり、最終的にはナイロビから購入したとのことである。

いずれも、複数の村に長距離の送水管路と多数の公共水栓で給水する施設であり、いきなりコミュニティに全権委譲するのは技術的に無理があるように思われた。また、施設の所有権が法的にCOWSOにあるために、県がCOWSOに対し支援は出来ても指示はしにくいように思われる。

#### (12) タンザニア国の地方給水の現況

水省の発表ではタンザニア国の地方給水率は56.6%(2011年)となっている。全世界共通の基準で算定されたUNICEF/WHO共同モニタリングプログラムでは、タンザニア国の地方給水率は1990年46%、2000年45%、2010年44%と改善が見られず、サブサハラアフリカ平均の1990年36%、2000年42%、2010年49%と比べて悪い状況にある。問題と思われるのは長年給水率が向上していないことにあり、この様な国は他にスーダン、ルワンダ、タンザニア、コンゴ民等しかない。コミュニティ給水局の見解では、「給水率が向上していない原因は人口増加にあり給水人口は着実に増加している」とのことであるが、非稼働率の高さに主な問題があるように思われる。

水源施設実態調査(Water Point Mapping)と呼ばれる全給水施設の状況調査が、2004年よりWater AID主導で始められ、非稼働率が46%と報告されている。Water Point MappingはDEFIDやAfDBの支援を受け拡大し、全ての県について2013年3月に調査が終了する予定となっている。Water Point Mappingの結果はMISに取り込まれることになっており、報告書は未だ出ていない。90県の途中データでは非稼働率が45~50%となっているとのことであり、他のサブサハラアフリカに比べてかなり悪い数値となっている。やはり給水率が向上していない隣国のルワンダの非稼働率も約43%と高く、ハンドポンプ以外に村落部でも広域のパイプ給水が多い点がルワンダとタンザニアが類似しているように思われる。特にタンザニアの場合は、1985年まで社会主義体制であったため、老朽化した地方広域給水施設が多く、長らく政府運営により水料金が無料であったという問題を抱えているように思われる。加えて、農業が主産業であり畑地に民家が分散した散村の

集落形態であることが、運営・維持管理を難しくしている。広域給水施設の場合、ちょっとした故障が原因で全域の給水がストップしてしまうという欠点もある。つまり、地方やコミュニティに任せるには運営・維持管理が難しい施設が多いことが、他のサブサハラアフリカに比べて稼働率が低く、給水率の向上が見られない大きな原因となっているのではなかろうか。

## 第2章 評価の方法

本評価調査では『JICA 事業評価ガイドライン（改訂版）』に沿って、評価調査時点でのプロジェクトの計画達成状況、実施プロセスをプロジェクトデザインマトリックス（PDM）に基づいて把握・検討し、その結果を評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）の観点から価値判断する方法を取った。また、その結果を踏まえて、プロジェクト関係者に対する提言並びに教訓の抽出を行った。

本評価調査ではタンザニア側の評価委員と日本側の調査団による合同評価委員会を結成し評価を実施した。具体的な評価方法については以下の通りである。

### 2-1 PDM

PDM1 に基づいて、計画事項の達成度の確認および評価5項目による分析をおこなった。

### 2-2 評価デザインの検討と調査項目・設問

インセプションおよびプログレスレポート、プロジェクトチーム作成の実績表、実施協議にかかる議事録（R/D）他、プロジェクト実施に係る各種資料を元に、評価デザインを検討し、評価グリッドに取りまとめた。尚、同グリッドを元にした調査項目・設問は以下の通りである。

#### 主な調査項目・設問

項目	設問
実績の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 投入（日本側・タンザニア側）の実施状況</li> <li>➢ 成果の達成状況</li> <li>➢ プロジェクト目標の達成見込み</li> <li>➢ 上位目標の（プロジェクト終了後）達成見込み</li> </ul>
実施プロセスの検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 意思決定プロセス</li> <li>➢ 進捗管理の方法</li> <li>➢ コミュニケーションの円滑さ</li> <li>➢ カウンターパートの配置状況 等</li> </ul>
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 相手国政府の開発政策との整合性</li> <li>➢ 相手国のニーズとの整合性</li> <li>➢ 日本の援助政策との整合性</li> <li>➢ 必要とされる技術の日本の優位性</li> </ul>
有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ プロジェクト目標の達成見込み</li> <li>➢ プロジェクト目標と成果の因果関係</li> <li>➢ プロジェクト目標達成の促進要因・阻害要因</li> </ul>
効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 成果の達成状況</li> <li>➢ 成果に必要な活動が計画されていたか</li> <li>➢ 成果に対する投入の適切性</li> </ul>
インパクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 上位目標の達成見込み</li> <li>➢ 上位目標以外の正負のインパクト</li> </ul>
自立発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ プロジェクトの効果を持続させる政策・制度はあるか</li> <li>➢ プロジェクトの効果を持続させる組織・財政状況はあるか</li> <li>➢ プロジェクトの効果が持続しうる技術力はあるか（機材の維持管理を含め）</li> </ul>

## 2-3 データ収集方法

情報・データ収集については、下記の方法で実施した。

### (1) 文献資料調査

既存の文献・報告書（事前評価調査報告書、R/D、インセプションレポート、プログレスレポート）、プロジェクトチーム作成の実績表他、その他専門家やカウンターパートが作成した資料などから必要な情報を収集した。

### (2) 質問票による調査

標記調査項目・設問に則って質問票を作成のうえ、専門家、カウンターパートに配布し、情報収集を行った。

### (3) 直接観察

パイロット地区の訪問、水省本部の視察等により、活動の実施状況ならびに進捗状況等の確認を行った。

### (4) インタビュー調査

プロジェクト関係者（専門家および水省）に対してインタビュー調査を行い、必要な情報を収集した。

## 2-4 評価5項目による分析

上記の設問に基づいて収集した情報は、以下の表のとおり評価5項目に基づいて分析を行い、合同評価報告書に取りまとめた。

### 評価5項目

5項目	主な視点
妥当性	プロジェクトの目指している効果（プロジェクト目標や上位目標）が、受益者のニーズに合致しているか、問題や課題の解決策として適切か、相手国と日本側の政策との整合性はあるか、プロジェクトの戦略・アプローチは妥当か、公的資金である ODA で実施する必要があるか等といった「援助プロジェクトの正当性・必要性」を問う視点。
有効性	プロジェクトの実施により、本当に受益者もしくは社会に便益がもたらされているのか（あるいは、もたらされるのか）を問う視点
効率性	主にプロジェクトのコストと効果に着目し、資源が有効に活用されているか（あるいは、されるか）を問う視点。
インパクト	プロジェクト実施によりもたらされる、より長期的、間接的効果の波及効果を見る視点。予期していなかった正負の効果・影響を含む。
自立発展性	援助が終了しても、プロジェクトで発現した効果が持続しているか（あるいは、持続の見込みはあるか）を問う視点。

出所：プロジェクト評価の手引き－改訂版 JICA 事業評価ガイドライン（2004年2月）



## 第3章 プロジェクトの成果・実績

### 3-1 投入

プロジェクト開始から中間レビューまでの期間（2011年8月－2012年12月）において、日本側・タンザニア側からほぼR/Dに沿った形で投入が行われた。

#### (1) 日本側

##### a) 日本人専門家

中間レビュー時点までに、7名の専門家が、計34.93M/M派遣された。計画は、33.7M/Mであったが、地方給水・衛生事業推進（1.23M/M）が追加で派遣された。専門家の担当は以下の通り。

- 総括・村落給水
- 組織能力開発
- 水理地質
- 給水施設維持管理
- 研修教材開発
- 地方給水・衛生事業推進

##### b) 本邦研修

計5名のカウンターパートが2012年4月7日から25日まで「水道事業人材育成」研修に参加した。

##### c) 現地業務費

中間レビュー時点までに、17,946,400円が現地業務費として使用された。

#### (2) タンザニア側

##### a) プロジェクトメンバー

水省から5名がプロジェクトメンバーとして配置されている。中間レビュー時点でのプロジェクトメンバーは別添8の通り。

##### b) 施設・機材

日本人専門家の執務室がR/Dに沿って提供された。

##### c) 現地業務費

現地業務費として、17,676,244タンザニアシリング（972,192円<sup>1</sup>）が、JCC開催時の参加者手当、電気代、水道料金に使用された。

---

<sup>1</sup> Tsh. 1 = JPY 0.055 (JICA exchange rate in January, 2013.)

### 3-2 成果の達成状況

#### 【成果1：RUWASA-CADの研修パッケージが改善され、水省によって採用される。】

指標 1-1. コミュニティ給水局によって配布された研修モジュラーガイドを活用する全国の DWST、RWST 及び BWO が XX%以上となる。

現時点では、研修モジュラーガイドは DWST、RWST 及び BWO によって活用されていない。これは、研修モジュラーガイドは、DWST、RWST 及び BWO の CD 計画<sup>2</sup>に含まれる研修を実施する際に用いられるが、CD 計画自体が実施されていないためである。CD 計画が実施されていない理由として以下が確認された。

- i) CD 計画実施のための唯一の財源である WSDP から配賦される資金の不足<sup>3</sup>。
- ii) CD 計画自体が活用可能な資金を基に作成されておらず、実施可能な計画となっていない<sup>4</sup>。

指標 1-2. RUWASA-CAD 研修パッケージの RWSSP 事業実施マニュアル (PIM) 添付資料に採用される。

現時点では、「RUWASA-CAD 研修パッケージ」は、PIM の添付資料として採用されていない。一方、「RUWASA-CAD 研修パッケージ」を作成する際の参考資料である「RWSS プロジェクトサイクル<sup>5</sup>」が PIM に取り込まれた。

本指標については、中間レビューまでに、プロジェクトメンバー内で、「RUWASA-CAD 研修パッケージ」ではなく、「RWSS プロジェクトサイクル」及び「研修モジュラーガイド<sup>6</sup>」を PIM に取り込むことの方が指標として適切との合意を得ている。RUWASA-CAD 研修パッケージは、WSDP 実施機関の研修ニーズにより適宜変更されるもので、PIM の別添資料としてはふさわしくないと判断されたことが理由である。

<sup>2</sup> 能力開発計画。2009年にドイツ国際協力公社(GIZ)(当時は、ドイツ技術協力公社:GTZ)の支援を受け、水省が各WSDP実施機関に作成させた。内容は、研修実施だけでなく、設備機材の購入なども含んでいる。

<sup>3</sup> CD計画実施予算は、各実施機関の自己財源も活用されることが能力開発計画策定当時から求められていたが、実際は活用されていない。

<sup>4</sup> 2011/12年度の第3四半期に各県あたりTshs.45万-Tshs.2.3百万(2万5千円-12万5千円程度)、合計約Tshs.11.2百万(6百万円程度)のWSDP予算が研修実施のために配賦された実績がある。また、中期支出枠組み(MTEF)では、2012/13年度及び2013/14年度に約Tshs.18.6億(1億円程度)が計上されている。タンザニア本土の132県、21州で均等配分すると1県、1州あたり2年間で約Tshs.12百万(66万円程度)となる。一方、例えばシンギダ県のCD計画予算は、約Tshs.20億(1.1億円程度)であり、活用可能予算を大幅にオーバーしている。ウユイ県でのインタビューでは、CD計画と配賦された資金に開きがあることから、資金は別の用途(水省による別研修の手当等)に利用されたことが確認された。

<sup>5</sup> 村落給水事業プロセス(準備、計画、実施、維持運営/フォローアップ)における活動項目ごとに活動を実施する機関を記載した一覧表。

<sup>6</sup> DWST、RWST及びBWOによる研修計画を策定する際の参考書。各村落給水事業プロセスに対応するモジュールを記載した一覧表、DWST、RWST及びBWO用のモジュールで構成されている。

**【成果 2：各地域の自然環境及び社会経済状況に適応した研修の補完教材が開発される。】**

指標 2-1. XX の研修補完教材が作成される。

パイロット地域の自然環境及び社会経済状況などの地域特性を分析した結果、タンザニア本土各地域の地域特性に適応した補完教材が以下の通り作成された<sup>7</sup>。

1. 水理地質予察図とその解説
2. 岩盤地域での地下水調査法の解説と調査事例の紹介
3. フッ素による健康被害の解説
4. フッ素濃度分布図
5. 給水率分布図、人口密度分布図

指標 2-2. 研修補完教材の内容に関する研修受講者の満足度が XX 以上を達成する。

パイロット地域における研修受講者に対するアンケート調査<sup>8</sup>の結果、研修参加者の 90%以上が、補完教材を「とても良い」または「良い」と評価した。

**【成果 3：全国の DWST、RWST 及び BWO に対する水省コミュニティ給水局の能力開発支援体制が強化される。】**

指標 3-1. 研修リソースインベントリを活用する DWST、RWST 及び BWO の割合が全国で XX%以上となる。

現時点では、全国版の研修リソースインベントリは作成されていない。研修リソースインベントリは、DWST、RWST 及び BWO が CD 計画に含まれる研修を実施する際に活用する資料であるが、予算不足等により CD 計画がプロジェクト終了時までには実施されることはないと推測され、プロジェクト前半での作成が見送られたからである。全国版のリソースインベントリは、WSDP 全体のインベントリ作成方針が策定される 2013 年 6 月以降に作成する計画に変更されている。

指標 3-2. 2013 年 11 月までに研修指導要領を完成させる。

2012 年 5 月に研修指導要領の第 1 版ドラフトが完成した。第 1 版ドラフトには、モニタリング・評価のセクションが含まれていないが、2013 年 6 月に WSDP のモニタリング・評価フレームワークが作成される予定であり、その後同フレームワークに沿った形で追加される予定である。

指標 3-3. 村落給水・衛生関連研修に必要な予算配分及び研修の実施方法に関して、コミュニティ給水局のファシリテーションを受ける全国の DWST、RWST 及び BWO が増加する。

現時点では、村落給水・衛生関連研修に必要な予算配分に関して、コミュニティ給水局のファシリテーションを受けている全国の DWST、RWST 及び BWO は存在しない。理由としては以下が確認された。

- i) 本指標における CWSD のファシリテーションは、CD 計画における研修を実施する際に行われるものであるが、CD 計画実施のための予算が不足していることや CD 計画そのものが財源を

<sup>7</sup> パイロット地域は、タンザニア本土の他地域の自然環境と社会条件と類似しており、パイロット地域以外でも活用できる内容とすることを想定している。

<sup>8</sup> パイロット地域で実施された研修において補完教材を活用し、その評価を参加者に対する 5 段階の選択式調査で実施した結果。

確保せずに作成され予算過多となっていることが原因で CD 計画が実施されていない。

- ii) DWST/RWST は、CWSD とは主管省庁が異なり、また BWO は CWSD が主管局でないため、タンザニアの行政組織においては、DWST、RWST 及び BWO に対して CWSD がファシリテーションを行うことが難しい。

**【成果 4:パイロット地域のコミュニティにおける給水状況の改善へ向けた取り組みが強化される。】**

**指標 4-1. パイロット地域で DWST による指導を受けるコミュニティの数が増加する。**

パイロット地域において、プロジェクト実施前は、COWSO による給水施設の運営とメンテナンスをモニタリング・指導する DWST は存在しなかったが、現時点までに、パイロット地域であるタボラ州の 2 つの県（ウユイ県およびシコンゲ県）で COWSO による給水施設の運営とメンテナンスのモニタリングが開始された。その他 4 つのパイロット県においても、COWSO による運営とメンテナンスのモニタリングを開始する意向が示されている。

**指標 4-2. 給水施設の料金徴収率が向上したパイロット地域の対象コミュニティの割合が XX%以上となる。**

DWST による COWSO モニタリングは、タボラ州のパイロット COWSO で開始されて間もないため、本指標においても進捗が見られない。モニタリングを開始したウユイ県で、COWSO から DWST に提出される月報が 2012 年 11 月初めて提出されたところであり、COWSO の事業運営状況の変化をモニタリングできるのは下半期になる。なお、水の料金徴収については、天候などプロジェクトでは管理できないその他の要件の影響をうけることが判明したため、本指標を指標として設定することが難しいことが指摘された。

**3-3 プロジェクト目標の達成状況**

**プロジェクト目標：水省コミュニティ給水局によって提供される全国の DWST、RWST 及び BWO を対象とした能力開発支援が強化される。**

**指標 1. 水省コミュニティ給水局によって提供される能力開発支援にかかる DWST、RWST 及び BWO の満足度が、平均で XX%以上に達する。**

パイロット地域のタボラ州ウユイ県及びシコンゲ県に対するアンケート調査<sup>9</sup>においては、DWST の CD に対するコミュニティ給水局の支援に関する満足度が 80%を超している。しかし、本指標が目指すタンザニア本土の DWST、RWST 及び BWO の CD の実施に対するコミュニティ給水局による支援は、現時点で実施されていない。

**指標 2. パイロット地域のコミュニティを対象とした DWST の指導件数が増加する。**

パイロット地域において、プロジェクト実施前は、COWSO による給水施設の運営とメンテナンスをモニタリング・指導する DWST は存在しなかったが、タボラ州のウユイ県およびシコンゲ県の DWST が COWSO の給水施設運営・管理のモニタリングを開始した。その他 4 つのパイロット DWST においても、COWSO による運営とメンテナンスのモニタリングを開始する意向が示されている。

<sup>9</sup> ウユイ県及びシコンゲ県に対しては、「COWSO モニタリング支援」が水省村落給水局、日本人専門家によって実施された。同支援に対するアンケート調査は、両県の DWST に対して実施されたが全員が同支援に対し、5 段階評価で上から 2 番目以上の評価をした。

指標 3. パイロット地域の DWST を対象とした RWST の指導件数が増加する。

パイロット地域における RWST の DWST を対象とした指導は、プロジェクト開始以前から実施されているが、本プロジェクトにおける DWST の活動は、すべて RWST を介して行われてきたため、プロジェクト開始以前と比較すると、パイロット地域の DWST に対する RWST の指導件数は増加している。

指標 4. パイロット地域の DWST 及び RWST を対象とした BWO の指導件数が増加する。

パイロット地域の DWST は、プロジェクト開始以前から、水源開発や水利権獲得のため BWO に対して指導を求めているが、本プロジェクトにより実施された研修により、BWO と DWST/RWST 間のコミュニケーションがより円滑になり、指導件数は増えつつある。しかし、BWO および DWST/RWST は、異なる行政組織に所属しているため、BWO が DWST 及び RWST に対して指導を行うことの行政組織上の難しさも指摘された。

### 3-4 上位目標の達成状況

村落給水・衛生 (RWSS) 事業に係る全国の県給水衛生チーム (DWST)、州給水衛生チーム (RWST) 及び流域管理事務所 (BWO) の村落給水・衛生事業に関する運営管理能力が強化される。

指標 1. WSDP 予算の配賦を受けた DWST、RWST 及び BWO による事業実施件数が、2018 年までに XX 件以上になる。

指標達成の目標が未設定になっていること及び DWST、RWST 及び BWO による地方給水・衛生サービスの件数の定義が曖昧なため、本指標を達成できる見込みを判断することは困難である。

指標 2. パイロット地域の県における改善された水源を利用できる人口の割合が、2018 年までに XX% から YY% に増加する。

目標値が未設定のため、現時点で指標達成の見込みを判断することは困難である。なお、現時点では、タンザニア政府の政策文書において、本指標に係る目標値が設定されていない。WSDP フェーズ 2 (2014/15-2018/19) の策定プロセスの中で、本指標に係る目標値が明確となり、指標達成の可能性についても判断が可能となるであろう。

### 3-5 活動

プロジェクト活動は、アウトプット 3 の活動を除いては概ね PO ver.1 に沿って実施された。アウトプット 3 の活動に関して次の活動が未実施である。

- i) 全国版研修リソースインベントリの作成
- ii) CWSD の年間研修管理計画の作成
- iii) CWSD によるタンザニア本土の DWST、RWST 及び BWO の研修モニタリング、監督

また、プロジェクトメンバーの合意のもと、中間レビューまでに以下の活動が追加で実施された。

- i) パイロット地域の DWST、RWST 及び BWO に対する研修第 1, 2 フェーズの実施。(PO ver1 ではプロジェクト後半に実施)
- ii) PIM 実施状況調査 (アウトプット 1 に新たに追加された活動)

### 3-6 実施プロセス

#### コミュニケーション

日本側・タンザニア側プロジェクトメンバーへのインタビュー調査によると、双方から日本人専門家・タンザニア側プロジェクトメンバー間のコミュニケーションは円滑との評価を受けている。

#### モニタリング

中間レビューまでは、プロジェクトの進捗状況に関する日本人専門家・タンザニア側プロジェクトメンバーによる共同モニタリングは実施されなかった。タンザニア側プロジェクトメンバーが他の業務で集合できなかったことが原因である。そのため、プロジェクトの進捗状況に関するモニタリングは主に日本人専門家により実施された。

#### タンザニア側プロジェクトメンバーのオーナーシップ

プロジェクト活動の実施レベルに関しては、タンザニア側プロジェクトメンバーは積極的に活動に参加するなど、高いオーナーシップが確認された。一方、管理者レベル及び CWSD の能力開発・研修課に関しては、プロジェクトの実施に対して期待される協力が得られてこなかったため、プロジェクト後半はより高いオーナーシップを持ってプロジェクトに参加することが必要である<sup>10</sup>。

---

<sup>10</sup> プロジェクト前半では、コミュニティ給水局の局長（当時）からプロジェクト活動に対する協力が得られなかったことが確認された。例えば、プロジェクト上半期にパイロット地域の県及び州の CD 計画の分析により、CD 計画の課題が抽出され、その改善に取り組もうとしたが、局長はその活動を了承しなかった。また、CWSD の能力開発・研修課に関しては、1 名がプロジェクトメンバーとして配置されたが、2 年次以降ほとんどプロジェクト活動に参加していない。

## 第4章 評価結果

### 4-1 妥当性

妥当性は概ね高い。

プロジェクトは、タンザニア、日本の政策、及びタンザニアのニーズに以下の通り合致している。

#### タンザニア及び日本の政策

国家水政策(2002)及びWSDP(2005-2025)は、現時点で有効である。また、MKUKUTAI(2011-2015)(第3次貧困削減政策)は、事業目標の一つに「改善された水資源にアクセスできる村落世帯の割合が58.7%(2009年)から65%(2015年)に増加する」を掲げている。また、2012年水セクター状況報告書によると、2010年の再構築計画で改訂された村落給水衛生事業の目標値を達成するための地方自治体管理支援プログラムが、本プロジェクト及び地方自治体、州政府の能力強化を含めている。

2012年6月に策定された日本の対タンザニア国別援助方針は、給水施設の開発とその運営管理のための人材育成を重点支援分野の一つに設定している。

#### 国・ターゲットグループのニーズ

2012年水セクター状況報告書は、WSDP実施における地方自治体や州政府の能力の低さを指摘しており、WSDP実施機関の能力強化は必要とされている。

#### プロジェクトデザインの適切性

プロジェクトのロジックは適切と考えられる。JICAの他プロジェクトが実施されている地域をパイロット地域として選択したこともパイロット地域の選択方針として適切である。しかし、CD計画が問題なく実施されることを前提としたプロジェクトデザインは、適切とは言えない。詳細計画策定時点においても、CD計画実施のための唯一の財源であるWSDPは、その支出計画を大きく下回っており、CD計画の実施予算が問題を抱える可能性が高いことは想定できたと思われる。

### 4-2 有効性

中間レビューまでのプロジェクトの進捗状況から判断すると、プロジェクト目標が達成される可能性は低いと考えられる。現時点では、既存のCD計画を実施するだけの予算が入手される可能性は低く、タンザニア本土のDWST、RWST及びBWOによるCD計画は実施されないことが推測される。その為、CWSDが各機関の研修実施を支援する機会を得ることは難しいだろう。

アウトプットがプロジェクト目標の達成に向け、その一部に貢献している。プロジェクトは、水省コミュニティ給水局によって提供されるタンザニア本土全域のDWST、RWST及びBWOを対象とした能力開発支援の強化(制度面、教材面、組織面)を目的としているが、中間レビューまでに、アウトプット1や2の進捗により、タンザニア本土のDWST、RWST及びBWOが実施する研修を支援する制度面、教材面での強化に貢献している。しかし、十分な研修実施予算がないため、タンザニア本土での研修実施、またそれに対するCWSDの支援が実施されておらず、組織面の強化は進んでいない。

### 4-3 効率性

投入、活動、アウトプットの実績から、中間レビュー時点では効率性は低いと考えられる。

日本側・タンザニア側からの投入の質、量、タイミングは、タンザニア側のプロジェクトメンバーの活動を除けば、概ね適切と判断される。タンザニア側のプロジェクトメンバーに関しては、配置はされているものの活動への参加が積極的でないことが指摘された。また、アウトプット1の活動としてPIM使用状況調査が追加で実施されたため、日本人専門家の派遣 M/M が 1.23M/M 増加した。

本邦研修に関しては、参加者が帰国後プロジェクト実施に積極的に参加していることが確認された。例えば、本邦研修に参加した州水アドバイザーは、パイロット地域におけるプロジェクト活動の取り纏めに積極的に取り組んでいる。

一方、前述の通り、アウトプット3の活動は、計画通り実施されておらず、またアウトプット1, 3に関しては、中間レビュー時点までで達成されることが期待された成果を達成できずにいる。その意味から、本プロジェクトにおいては投入が効率的にプロジェクト活動の実施に活用されなかったといえる。

効率性の阻害要因としては、DWST、RWST 及び BWO の CD 計画実施予算が不足していること、CD 計画自体が財政的に実施不可能なこと、CWSD/BWO が DWST/DWST と異なる省に属していること、があげられる。

### 4-4 インパクト

既存の指標では、上位目標の達成見込みを判断することは難しい。指標1は、指標の定義が明確ではないこと、指標2は、目標値の設定が現時点までにできないことが理由である。他の正負のインパクトは確認されなかった。

### 4-5 持続性

持続性は、以下の観点から分析して低いと考えられる。

#### 政策・制度面

政策・制度面の持続性は高いと考えられる。WSDP（2005-2025）は、プロジェクト終了後も有効であり、プロジェクトによる成果の継続を支援することが期待される。

#### 組織・財政面

組織面の持続性は低いと考えられる。タンザニア側プロジェクトメンバーの管理者レベルはプロジェクトに積極的に協力しておらず、タンザニア側の主要プロジェクトメンバーである村落給水局能力強化・研修課も積極的にプロジェクト活動に参加していない。また、DWST や RWST の主管省庁である地方自治省がプロジェクト実施に含まれていない。

財政面の持続性も低いと考えられる。本プロジェクトの成果が財政面で持続するためには、CD 計画実施予算が継続的に確保される必要がある。しかし、中間レビューまでは、CD 計画実施のための予算不足や予算過多の CD 計画が DWST、RWST 及び BWO が CD 計画を実施することを困難にし、CWSD が同計画における研修の実施を支援する機会を持っていない状況である。



## 技術面

技術面の持続性は、概ね高いと考えられる。CWSD は、DWST、RWST 及び BWO による研修実施を支援できる技術知識をある程度有していると日本人専門家より評価されている。



## 第5章 提言・教訓

### 5-1 結論

中間レビュー時点までに、RUWASA-CAD 研修パッケージの改善に係る活動（アウトプット 1）、補完教材の作成（アウトプット 2）、研修コンサルテーションガイドの第 1 ドラフトの作成（アウトプット 3）、及びパイロット地域における研修の実施（アウトプット 4）が概ね計画通り実施された。しかし、DWST、RWST 及び BWO による CD 計画実施予算の不足、CD 計画自体の予算過多が主な原因となり、アウトプット 1 及びアウトプット 3 の達成レベルが低かった。

プロジェクト終了までにアウトプット、プロジェクト目標を達成するためには、WSDP から配賦される限られた予算で実施可能な CD 計画の作成が必要であり、プロジェクト後半はまずそこに手を付けることが必要である。

5 項目評価に関しては、妥当性は概ね高いと考えられるが、効率性、有効性、持続性は、中間レビューまでのプロジェクト進捗状況を分析すると低いと考えられる。インパクトに関しては、上位目標の既存の指標ではその達成見込みの判断が難しい。

### 5-2 PDM の改訂

中間レビューの結果、今後のより良いプロジェクト実施のために PDM 変更の必要性が確認された。中間レビュー調査団により主に以下の変更が提案され、同提案を基に PDM の変更を早急に協議し、合意することを提案した。

- i) アウトプット 1 のプロジェクト要約の変更（現実に沿った内容への変更）
- ii) 上位目標、プロジェクト目標、アウトプットの指標の変更（現実的かつ指標データの入手が可能な指標の設定、目標値の設定）
- iii) i)、ii)の変更に合わせて活動の変更
- iv) 現在の名称に組織名の変更（DWSD を CWSD に、DWST を CWST に変更）

### 5-3 提言

- (1) DWST、RWST 及び BWO による CD 計画の実施（対象：日本人専門家及び水省）

本レビューにおいて、アウトプット及びプロジェクト目標を達成する阻害要因として CD 計画の未実施が確認された。プロジェクト後半では、CD 計画の実施を確保するために以下の活動を実施する事が必要である。

- i) DWST、RWST 及び BWO が作成した CD 計画が入手可能な予算内で実施されるよう、プロジェクトはそれらの CD 計画を予算的に実行可能な内容に改訂することを支援する。特に、プロジェクト実施期間中には、RUWASA-CAD フェーズ 1 及びフェーズ 2 のパイロット地域の CD 計画の改訂を支援する。
- ii) MTEF の 2012/13 年度及び 2013/14 年度の CD 計画実施のための WSDP 予算が計画通りに配賦されるよう、WSDP のテクニカルワーキンググループにおいて予算執行のフォローアップを行

う<sup>11</sup>。

- iii) DWST、RWST 及び BWO が CD 計画実施のために配賦された予算の一部を研修の実施に活用するよう、水省が行政指導を行う。
- iv) DWST、RWST 及び BWO が研修実施予算を確保できるよう、研修実施のための財源を拡大する。各機関は、WSDP 予算以外の財源として、各機関の歳入を研修に活用することを検討する<sup>12</sup>。
- v) パイロットエリアでの研修を開始するためにタンザニア全土のリソースインベントリを作成する。

(2) タンザニア側プロジェクトメンバーのオーナーシップ（対象：タンザニア側プロジェクトメンバー）

本レビューにおいて、一部のタンザニア側プロジェクトメンバーのオーナーシップが低いことが、プロジェクトの有効性・持続性にマイナスの影響を与えていることが確認された。プロジェクト目標を達成するために、タンザニア側プロジェクトメンバーは、プロジェクト目標の達成のためにより積極的に参加する。特に幹部レベル及び CB&T の参加が必要である。

- i) タンザニア側プロジェクトメンバーの管理者レベルはプロジェクトの実施に協力する。
- ii) コミュニティ給水局内の業務分担では、DWST、RWST による CD 計画実施のモニタリング・指導は、CB&T が担当することとなっており、本プロジェクトの実施においても同課から最低 1 名の職員を継続的に配置する。

(3) タンザニアの行政機構に合わせたタンザニア側プロジェクトメンバーの配置（対象：タンザニア側プロジェクトメンバー）

本レビューにおいて、タンザニアの行政機構を考慮していないプロジェクト実施体制がアウトプット達成の阻害要因となっていることが確認された。プロジェクト後半はタンザニアの行政機構を考慮したプロジェクト実施体制とすることが必要である。

- i) CWSD が DWST 及び RWST にコンタクトすることを容易にするため、地方自治省（PMO-RALG）の水セクター調整グループのメンバーをタンザニア側プロジェクトメンバーに加える。
- ii) 水資源局（WRD）は、タンザニア側プロジェクトメンバーの一部局として位置づけられているが、プロジェクトが支援する BWO は WRD の傘下であり、WRD に関しても、CWSD と並んでプロジェクト実施の中心的部局としてとらえる。

(4) パイロット地域における COWSO の運営状況モニタリングの継続（対象：日本人専門家、タンザニア側プロジェクトメンバー及びパイロット地域の DWST）

- i) 既存の PDM における COWSO の運営状況を測る指標（給水施設使用料に係る指標）は、指標

<sup>11</sup> 中間レビューで地方出張を実施したパイロット州・県（タボラ州ウユイ県及びシコンゲ県）は、中間レビュー時点で CD 計画の実施に対する資金を WSDP から受けておらず、2012/13 年度の拠出は下半期（2013 年 1 月～6 月）になると思われる。

<sup>12</sup> シコンゲ県では、県水技師の修士号取得のための奨学金や他職員のディプロマ取得のための奨学金を人材育成予算から拠出する（合計約 Tshs. 10 百万。約 55 万円）等、県レベルにおいても人材育成のための資金は存在すると思われる。

の目標を設定することが困難なため指標の変更を提言するため、PDM 上は COWSO の運営状況をモニタリングする必要がなくなるが、パイロット地域の DWST による COWSO 支援の COWSO の運営状況に対する影響を把握するために、パイロットエリアにおける COWSO の運営状況を継続してモニタリングする。

#### 5-4 その他提言・教訓

- (1) 本中間レビューでは、日本側・タンザニア側で合意した最新の PO (2011 年 5 月 23 日版 POver.1) を基に活動の進捗状況の評価を行ったが、関係者間で最新ととらえる PO が異なっていた。本中間レビューを期に、PO ver.2 を作成し、プロジェクト関係者全員で共通する PO を基にプロジェクト実施を管理することが必要である。
- (2) 本プロジェクトは、WSDP バスケットファンド予算の活用を想定した技術協力プロジェクトであるが、同バスケットファンド予算の拠出が想定通りなされなかったため、一部のプロジェクト活動が実施できない状況であった。バスケットファンド予算を活用した技術協力プロジェクトは、想定通り予算が拠出されれば、少ない投入で大きい成果を達成することが可能であるが、バスケットファンド予算にプロジェクトの成果が大きく左右される側面を持っている。そのため、バスケットファンド予算の活用を想定した技術協力プロジェクトを形成する際は、バスケットファンド予算が確実に拠出されることを如何に見極めるか、またバスケットファンド予算が拠出されない場合のリスクを如何に担保するかを十分に検討する必要がある。
- (3) 本中間レビューは、クリスマス、お正月直後の 1 月 6 日から実施されたため、評価スケジュールに関してタンザニア側カウンターパートとのコミュニケーションが事前にとれず、評価スケジュールが確定したのは先行調査団員が現地に到着した後だった。今回は、カウンターパート側の配慮で臨機応変にインタビューが設定されたが、短い調査期間を効果的に活用するために、現地調査の時期は長期休暇の直後には設定しないことが望ましい。

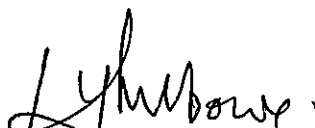


MINUTES OF MEETING  
BETWEEN  
JICA MID-TERM REVIEW TEAM  
AND  
MINISTRY OF WATER OF THE UNITED REPUBLIC OF TANZANIA  
ON  
THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION  
FOR  
THE PROJECT FOR RURAL WATER SUPPLY AND SANITATION CAPACITY  
DEVELOPMENT PROJECT PHASE 2

Dar es Salaam, January 24, 2013



Mr. Toshio Murakami  
Leader,  
Mid-Term Review Team,  
Japan International Cooperation Agency  
(JICA)  
Japan



Eng. Christopher N. Sayi  
Permanent Secretary  
Ministry of Water  
United Republic of Tanzania

The Government of the United Republic of Tanzania (hereinafter referred to as "Tanzania") and Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to "JICA") jointly organized the Mid-Term Review Team (hereinafter referred to as "the Team"), for the purpose of conducting the mid-term review for "the Project for Rural Water Supply and Sanitation Capacity Development Project Phase 2" (hereinafter referred to as "the Project"). The Team has carried out intensive study and analysis of the activities and achievements of the Project, and prepared the Joint Mid-Term Review Report attached hereto (hereinafter referred to as "the Report"), and presented it to the Joint Coordinating Committee (JCC) held on January 24, 2013.

The representatives of the Japanese side and the Tanzanian side are recommended to report to their respective authorities concerned the matters referred to in the Report to ensure that necessary measures are taken for the smooth and successful implementation of the Project.

END

Attached Document: Joint Mid-Term Review Report





Attachment

**JOINT MID-TERM REVIEW REPORT**  
**On**  
**THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION**  
**For**  
**THE PROJECT FOR RURAL WATER SUPPLY AND SANITATION CAPACITY**  
**DEVELOPMENT PROJECT PHASE 2**

**Japan International Cooperation Agency**  
**and**  
**Ministry of Water of the United Republic of Tanzania**

**January, 2013**



## CONTENTS

1. Introduction
  - 1-1 Objectives of the review
  - 1-2 Members of the joint review team
  - 1-3 Schedule of the review
2. Outline of the Project
  - 2-1 Background of the Project
  - 2-2 Summary of the Project
3. Methodology of review
  - 3-1 Review method
  - 3-2 Five Evaluation Criteria
  - 3-3 Review Questions and Indicators
  - 3-2 Data Collection Methods
4. Achievement of the Project to the date
  - 4-1 Inputs
  - 4-2 Outputs
  - 4-3 Project Purpose
  - 4-4 Overall Goal
  - 4-5 Activities
  - 4-6 Implementation Process
    - Communication, Monitoring, Ownership
5. Review Results by the five criteria
  - 5-1 Relevance
  - 5-2 Effectiveness
  - 5-3 Efficiency
  - 5-4 Impact
  - 5-5 Sustainability
6. Conclusion
7. Revision of Project Design Matrix (PDM)
8. Recommendations
  - Recommendations

## ANNEXES

- ANNEX-1...Schedule of the Mid-term Review
- ANNEX-2...List of Interviewees
- ANNEX-3...PDM ver.1



ANNEX-4...PO ver.1

ANNEX-5...List of Japanese Experts

ANNEX-6...List of Participants in Counterpart Training in Japan

ANNEX-7...Operational Expenses by Japanese side (JPY)

ANNEX-8...List of Tanzanian C/P at the time of Mid-term Review

ANNEX-9...List of Activities

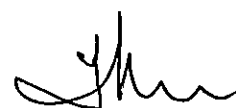
ANNEX-10..Proposed Revision of PDM

#### List of Abbreviation

BWO	Basin Water Office
CB&T	Capacity Building and Training
CD	Capacity Development
COWSO	Community Owned Water Supply Organization
C/P	Counterpart
CWSD	Community Water Supply Division
DWST	District Water and Sanitation Team
IA	Implementation Agency
ID&CD	Institutional Development and Capacity Building (ID&CB)
JCC	Joint Coordinating Committee
LGAs	Local Government Authorities
JICA	Japanese International Cooperation Agency
MDGs	Millennium Development Goals
M&E	Monitoring and Evaluation
MKUKUTA	Mkakati wa Kukuza Uchumi na Kuonda Umasikini Tanzania
M/M	Man Months
MoW	Ministry of Water
MTEF	Medium-Term Expenditure Framework
NAWAPO	National Water Policy
NSGRP	National Strategy for Growth and Reduction of Poverty
O&M	Operation and Maintenance
PDM	Project Design Matrix
PIM	Program Implementation Manual
PMO-RALG	Prime Minister's Office-Regional Administration and Local Government
PO	Plan of Operations
R/D	Record of Discussion



RS	Regional Secretariat
RUWASA-CAD	Rural Water Supply and Sanitation Capacity Development
RWSS	Rural Water Supply and Sanitation
RWSD	Rural Water Supply Division
RWST	Rural Water and Sanitation Team
SWAp	Sector Wide Approach to Planning
UWSS	Urban Water Supply and Sewerage
WRD	Water Resources Division
WRM	Water Resources Management
WSDP	Water Sector Development Programme



## **1. Introduction**

### **1-1 Objective of the review**

The Mid-Term Review is conducted with the following objectives:

- 1) To review inputs, activities, and outputs of the Project to date and assess the likelihood of achievement of the Project Purpose as well as the Overall Goal;
- 2) To analyze the progress and achievements based on the Project Design Matrix and the five criteria for evaluation, namely, relevance, effectiveness, efficiency, impact, and sustainability, and to prepare the Joint Mid-Term Review Report;
- 3) To present recommendations on: 1) necessary measures and activities in order to achieve the Project Purpose by the completion of the Project; 2) other lessons from the Project, which may be reflected in future implementation of other technical cooperation projects; and
- 4) To hold the Joint Coordinating Committee to discuss the results of review.

### **1-2 Members of the joint review team**

#### **Japanese side**

- 1) Mr. Toshio MURAKAMI (Leader)  
Senior Advisor, JICA
- 2) Mr. Jun MORIGUCHI (Mission Planning)  
Water Resources Division II, Global Environment Department, JICA
- 3) Mr. Yasunori NAKAMURA (Evaluation)  
Global Link Management, Inc.

#### **Tanzanian side**

- 1) Mr. Imani Sifuel (Evaluation)  
Engineer, Technical Support Section, Rural Water Supply Division, Ministry of Water

### **1-3 Schedule of the review**

Schedule of the review is attached as ANNEX 1.

## **2. Outline of the Project**

### **2-1 Background of the Project**

The Government of Tanzania sets the development of rural water supply as direct strategy for the improvement of poverty conditions, and makes a political target by revised National Water Policy (NAWAPO, 2002) and the Mid-term National Strategy for Growth and Reduction of Poverty (NSGRP, 2004-2007). Consequently the Government is trying to develop institutional and organizational capacities to be enhanced for the achievement of Second Term of National Strategy for Growth and Reduction of Poverty (2005-2010) and Millennium Development Goal (MDGs).




Based on the Policy, the Ministry of Water has prepared a Water Sector Development Programme (WSDP) which is designed under Sector Wide Approach to Planning (SWAp) in February 2007. The WSDP was constituted by the following four main components. Among those components, the “Rural Water Supply and Sanitation” intends for the achievement of 90 % of water supply, and 75 % of sanitation facilities in the rural area by 2025 of the goal of Tanzania Vision.

- 1) Water Resources Management (WRM)
- 2) Rural Water Supply and Sanitation (RWSS)
- 3) Urban Water Supply and Sewerage (UWSS)
- 4) Institutional Development and Capacity Building (ID&CB)

In such context, the Government of Tanzania requested the Government of Japan to implement the technical cooperation for the “Rural Water Supply and Sanitation Capacity Development (RUWASA-CAD) Project Phase 1” (hereinafter referred to as “Phase 1”), in order to strengthen the system for implementation, operation and maintenance of the rural water supply. The Phase 1 has started from September 2007 and completed in July 2010 in the four target regions of Coast, Dar es Salaam, Lindi and Wtwara.

The Phase 1 developed and provided the RUWASA-CAD training using the “Training Package” which includes the training materials and training modular guide, which is a guide for planning the RUWASA-CAD training with the modules. During the Phase 1, five Japanese experts had worked to support the capacity development (CD) for implementation agency (IA) of WSDP in cooperation with Tanzanian counterparts. The RUWASA-CAD project conducted the capacity development of IAs to effectively use the “Basket Fund” for RWSS. As the result of the Phase 1, each IAs in target regions had enhanced their capacity to manage RWSS services. Furthermore the Phase 1 made clear future subjects such as dissemination of the “Training Package”, development of the training consultation guide and the complementary training materials.

Under the process of WSDP, the importance on the capacity development for IA of WSDP was again realized. Therefore the Government of Tanzania requested to the Government of Japan to implement the technical cooperation for the “Rural Water Supply and Sanitation Capacity Development (RUWASA-CAD) Project Phase 2” which has basic concept to disseminate the outcome of the Phase 1 to the nationwide.

In December 2010, JICA dispatched a preparatory study team to the United Republic of Tanzania to design the Phase 2 project as well as discussion of the Master Plan for the Project. This request was accepted and the Government of the United Republic of Tanzania and the Government of Japan signed Record of Discussion (R/D) on May 23th, 2011. The Project commenced its operation in September 2011.



## 2-2 Summary of the Project

Summary of the Project Design based on Project Design Matrix (PDM) Ver. 1 (ANNEX 3) is as follows.

### <Project Implementation Period>

From September 2011 to July 2014

### <Project Purpose>

Assistance for the implementation of the capacity development (CD) of the DWSTs, RWSTs, and BWOs across the mainland of Tanzania provided by Community Water Supply Division (CWSD) of MoW is enhanced.

### <Expected Outputs>

- 1) The RUWASA-CAD training package is improved and adopted by MoW.
- 2) Complementary training materials adaptive to the natural environment and socioeconomic situation in each area of Tanzania are developed.
- 3) Supporting system of the training of CWSD of MoW for DWSTs, RWSTs, and BWOs across the mainland of Tanzania is strengthened.
- 4) The approach for improving the water supply situation in the communities is enhanced in the pilot areas.

## 3. Methodology of the Review

### 3-1 Review method

To perform the review, the performance/achievement and implementation process of the Project are assessed. Information on performance includes the results of Inputs, Outputs, the degree of achievement of Project Purpose and Overall Goal. Information on implementation process includes the progress of Activities, communication issues, monitoring and ownership of the partner country. After the data gathering, the achievement of the Project is reviewed by the five evaluation criteria shown in 3-2 through discussions among the joint review team.

The PDM ver. 1, and the Plan of Operations (PO) Version No. 1 (ANNEX 4) are used for the Review.

### 3-2 Five Evaluation Criteria

The below table shows the five evaluation criteria used for the review.

**Table 1: Five Evaluation Criteria**

Relevance	Relevance of the project plan is reviewed in terms of the validity of the Project Purpose and the Overall Goal in connection with the development policy of the Government of Tanzania, Aid policy of the Government of Japan, needs of beneficiaries, and by logical consistency of the project design.
Effectiveness	Effectiveness is assessed by evaluating the extent to which the Project

	has achieved its purpose and by clarifying the relationship between the Project Purpose and Outputs.
Efficiency	Efficiency of the project implementation is analyzed with emphasis on the relationship between Outputs and Inputs in terms of timing, quality and quantity.
Impact	Impacts of the Project are assessed on the basis of both positive and negative influences caused by the Project.
Sustainability	Sustainability of the Project is assessed in terms of organizational, financial and technical aspects by examining the extent to which the achievement of the Project will be sustained and expanded after the Project's completion.

### 3-3 Review Questions and Indicators

A summary of the review questions is shown below.

**Table 2. Summary of the review questions**

Assessment of Achievement	<ul style="list-style-type: none"> <li>-Have the Inputs been made as planned?</li> <li>-Have the Outputs been produced as planned?</li> <li>-Is the Project Purpose likely to be achieved?</li> </ul>
Assessment of Implementation Process	<ul style="list-style-type: none"> <li>-Are the Activities implemented as planned?</li> <li>-Is there any problem in the project management?</li> <li>-Are appropriate counterpart (C/P) allocated?</li> <li>-Have the monitoring been conducted in an appropriate manner?</li> <li>-Are communications between Japanese experts and C/P smooth?</li> <li>-Have the C/Ps participated in the project implementation actively?</li> <li>-Have there been any inhibiting and facilitating factors for the achievement of the activities, outputs and the Project purpose?</li> </ul>
Relevance	<ul style="list-style-type: none"> <li>-Has the project been in line with the needs of C/P?</li> <li>-Has the Overall Goal been in line with the development policy of C/P country?</li> <li>-Has the project been in line with the Japanese Country Assistance Strategy to Tanzania?</li> <li>-Is the Project approach appropriate?</li> <li>-Are there any political, economic and social changes after ex-ante evaluation?</li> </ul>
Effectiveness	<ul style="list-style-type: none"> <li>-Is the Project Purpose likely to be achieved?</li> <li>-Are the achievements of the Outputs contributing the achievement of the Project purpose?</li> <li>-Are there any inhibiting factors for the achievement of the Project Purpose?</li> <li>-Are there any other inhibiting factors for the achievement of the Project Purpose?</li> </ul>
Efficiency	<ul style="list-style-type: none"> <li>-Has each Output been produced as planned?</li> <li>-Are the Activities sufficient to achieve the Outputs?</li> <li>-Are quality, quantity and timing of Inputs appropriate?</li> </ul>



Impact	-Is the Overall Goal likely to be achieved considering the Project progress as of today? -Is there any positive and negative impact other than Overall Goal?
Sustainability	-Are the policy/organizational/financial support, technical capacity likely to be continued after the Project?

### 3-4 Data Collection Methods

In order to review the performance of the Project, the data is collected through following methods:

- (1) Questionnaire
- (2) Interview
- (3) Review of reports and documents
- (4) Field observation

## 4. Achievement of the Project to the date

### 4-1. Inputs

As of December 2012, inputs from the Japanese side and Tanzanian side have been made mostly in accordance with the R/D as follows.

#### (1) Japanese side

##### a) Japanese experts

A total number of 7 experts, totaling 34.93 man-months (M/M), have been dispatched by the time of the mid-term review, compared with 33.7 M/M in the original plan. The fields of the experts are;

- Chief Adviser/Community Water Supply,
- Institutional Capacity Development,
- Hydrogeology,
- Operation and Maintenance of Water Supplying Facility,
- Training Material Improvement,
- Community Water Supply and Sanitation Facilitation

The detailed list of Japanese experts is attached as ANNEX 5.

##### b) Counterpart training in Japan

A total number of 5 counterpart personnel received counterpart training on Human Resources Development of Water Service in Japan from April 7<sup>th</sup> to 25<sup>th</sup>, 2012. The detailed list of participants to counterpart training in Japan is attached as ANNEX 6.

##### c) Local operation cost

As of the Mid-term review, JPY17,946,400 was disbursed. The detailed local operation cost is attached as ANNEX 7.

#### (2) Tanzanian side

##### a) Counterpart



Total of 5 counterpart staff is assigned from MoW. The detailed list of the counterpart staff at the time of the Mid-term review is attached as ANNEX 8.

b) Office space and facilities

Office for Japanese experts is provided by the counterpart as per the R/D.

c) Local Operational cost

Local Operational cost was used for allowance for holding JCC, electricity and water. Total amount was Tshs. 17,676,224, equivalent to JPY 972,192.<sup>1</sup>

**4-2. Outputs**

***Output 1: The RUWASA-CAD training package is improved and adopted by MoW.***

Indicator 1-1: The percentage of the DWSTs, RWSTs, and BWOs utilizing the training modular guide distributed by the CWSD of MoW attains to more than XX % across the mainland of Tanzania

At the moment, the training modular guide, which was developed to be used for implementation of the training under the CD plans, has not been utilized by DWSTs, RWSTs and BWOs. One of the reasons why the training modular guide has not been utilized is that the budget for implementation of CD plans of DWSTs, RWSTs and BWOs allocated under WSDP phase 1, which is a single financial source for implementation of the CD plans, is not sufficient to cover the cost for implementation of their existing CD plans. In addition, feasibility of CD plans themselves is low since the existing CD plans have been developed without considering the available budget.

Indicator 1-2: The RUWASA-CAD training package is incorporated into the Annex of the RWSSP Program Implementation Manual (PIM)

At the moment, RUWASA-CAD training package has not been incorporated into PIM while RWSS Project Cycle<sup>2</sup> has been incorporated into PIM. It has been discussed and agreed by the Project members that this indicator should target incorporation of RWSS project cycle and Training modular guide, which are referred to when the training is planned, instead of RUWASA-CAD training package because RUWASA-CAD training package, which could be modified flexibly in accordance with the training needs, is considered to be inappropriate for PIM attached documents.

***Output 2: Complementary training materials adaptive to the natural environment and socioeconomic situation in each area of Tanzania are developed.***

<sup>1</sup> Tshs. 1 = JPY 0.055 (JICA exchange rate in January, 2013.)

<sup>2</sup> RWSS Project Cycle is a matrix showing the important process of RWSS services together with WSDP implementing agencies, which are responsible for each activity of such process.



**Indicator 2-1: The number of prepared complementary materials attain to XX.**

Following 5 (five) complementary materials have been developed after the analysis of regional characteristics by natural environment situation and socio-economic situation in the pilot areas.

1. Preliminary hydrogeological Map
2. Investigation method in the Basement Rock Area
3. Health Damage Caused by Fluoride
4. Distribution Map of Fluoride Concentration
5. Socio-economic Condition on Population Density and Water Coverage

**Indicator 2-2: Satisfaction ratings of the participants in the training attain to more than XX % on average regarding the complementary training materials.**

According to the participants survey, more than 90% of the participants of the training using the complementary training materials in the pilot area rated the complementary training materials either 'very good' or 'good'.

***Output 3: Supporting system of the training of CWSD of MoW for DWSTs, RWSTs, and BWOs across the mainland of Tanzania is strengthened.***

**Indicator 3-1: The percentage of the DWSTs, RWSTs, and BWOs utilizing the training resource inventories attains to more than XX% across the mainland of Tanzania.**

At the moment, the nationwide training resource inventories, which are supposed to be used for implementation of the training under CD plans of DWSTs, RWSTs and BWOs, have not been produced since it is expected that their CD plans would not be implemented by the end of the Project due to inadequate budget. The nationwide training resource inventories are to be developed after June, 2013 by when a policy for developing WSDP inventories is prepared.

**Indicator 3-2: The training consultation guide is completed by November 2013.**

The first draft of training consultation guide was developed in May, 2012. The first draft did not include Monitoring and Evaluation (M&E) section, which is to be added after publication of M&E framework of WSDP in June, 2013.

**Indicator 3-3: The number of the DWSTs, RWSTs, and BWOs receiving facilitations by the CWSD regarding the budget allocation for the RWSS-related training in their training plans is increased across the mainland of Tanzania.**

At the moment, CWSD's facilitations on the budget allocation for the RWSS-related training in CD plans of DWSTs, RWSTs and BWOs have not been conducted across the mainland Tanzania. One of the reasons for CWSD's not conducting such facilitation is the training under their CD plans has not been conducted due to inadequate budget. There is also a problem of administrative setup in which CWSD and DWSTs/RWSTs are under different ministries and in which BWOs are under WRD not CWSD. This administrative setup puts CWSD in difficult position to conduct facilitations to DWSTs,

RWSTs and BWOs.

***Output 4: The approach for improving the water supply situation in the communities is enhanced in the pilot areas.***

Indicator 4-1: The number of the communities in the pilot areas receiving guidance by the DWSTs is increased.

At the moment, training for DWSTs and RWSTs in the pilot areas have been conducted and two districts in Tabora region; Uyui and Sikonge have started monitoring the operation and maintenance (O&M) of water supply facilities by Community Owned Water Supply Organization (COWSO). Other 4 (four) pilot districts have also shown their intention to start monitoring the O&M by COWSO in their districts.

Indicator 4-2: The percentage of the communities in the pilot areas increasing the collection ratio of user for water-supplying facilities attains to more than XX%.

There has been no progress in this indicator since the monitoring activities of COWSO have just started in the pilot COWSO in Tabora region. First monthly report to inform the management status of COWSO has been submitted to DWST only recently. It was also found that the amount of water user fee depends on other factors which are not able to be controlled by the Project, for example weather.

#### 4-3. Project Purpose

***Project Purpose: Assistance for the implementation of the capacity development (CD) of the DWSTs, RWSTs, and BWOs across the mainland of Tanzania provided by Community Water Supply Division (CWSD) of MoW is enhanced.***

Indicator 1: Satisfaction ratings of the DWSTs, RWSTs, and BWOs attains to more than XX% on average regarding the assistance for the CD provided by the CWSD.

In Uyui and Sikonge district of Tabora region, satisfaction ratings of the DWSTs on assistance by CWSD for CD on COWSO monitoring support have been more than 80%. However, at the moment, assistance for the implementation of the CD of DWSTs, RWSTs and BWOs across the mainland of Tanzania has not been provided by CWSD.

Indicator 2: The number of guidance on the RWSS services for the communities in the pilot areas is increased by the DWSTs.

Two districts in Tabora region; Uyui and Sikonge have started monitoring the operation and maintenance (O&M) of water supply facilities by COWSO. Other 4 (four) pilot districts have also shown their intention to start monitoring the O&M by COWSO in their districts.

Indicator 3: The number of guidance on the RWSS services for the DWSTs in the pilot areas is increased by the RWSTs.

The number of guidance for DWSTs in the pilot areas through RWSTs has been

increased in parallel with the progress of the Project because all guidance to DWSTs is provided through RWSTs..

Indicator 4: The number of guidance on the RWSS services for the DWSTs and RWSTs in the pilot areas is increased by the BWOs.

DWSTs have consulted with BWOs on water exploration and acquisition of water right in the pilot areas. However, administrative setup, in which BWOs and DWSTs/RWSTs are under different ministries, has made it difficult for BWOs to provide guidance to DWSTs and RWSTs. Meanwhile, after joint training conducted by this Project, communication between BWOs and DWSTs/RWSTs in the pilot areas has become smoother although the said administrative setup still makes it difficult for BWOs to provide the guidance on RWSS services.

#### 4-4. Overall Goal

*Overall Goal: Capacity of the District Water and Sanitation Teams (DWSTs), Regional Water and Sanitation Teams (RWSTs), and Basin Water Offices (BWOs) in Tanzania to manage rural water supply and sanitation (RWSS) services is enhanced.*

Indicator 1: The number of RWSS services implemented by DWSTs, RWSTs and BWOs receiving financial assistances from the WSDP budget attains to more than XX in each district across the mainland of Tanzania in 2018.

At the moment, it is difficult to judge the likelihood of achieving this indicator because no target has been set and the definition of 'the number of RWSS services by DWSTs, RWSTs and BWOs' is not clear. It is also difficult to set the target number in each district since each district has different condition.

Indicator 2: The percentage of populations using improved water supply is increased from XX% to YY% in the districts of pilot areas by 2018.

At the moment, it is difficult to judge the likelihood of achieving this indicator because no target has been set. At the moment, no policy documents of the Government of Tanzania set the target for this indicator. In the course of developing WSDP phase II, the target should become clear and it will be possible to judge the likelihood of achieving this indicator.

#### 4-5. Activities

The Project has been implemented mostly as planned in PO version No.1 except the activities under the Output 3. The following activities have not been implemented under the Output 3.

- i) Production of the nationwide training resource inventories.
- ii) Production of annual training management plan of the CWSD
- iii) Monitoring/Supervising the training of DWSTs, RWSTs and BWOs in the mainland of Tanzania by the CWSD.



The following activity has been conducted additionally by the time of the Mid-term review.

- iv) 1<sup>st</sup> and 2<sup>nd</sup> Training Phases for DWSTs, RWSTs and BWOs in the pilot areas (originally planned in the latter half of the Project)
- v) PIM utilization study (new activity under Output 1)

Activities implemented by the time of the mid-term review are shown in ANNEX 9.

#### **4-6. Implementation Process**

##### Communication

The interviews to the Project team found that communication between Japanese experts and Tanzanian counterparts are considered to be smooth by both sides.

##### Monitoring

By the time of the Mid-term review, joint monitoring of the Project implementation by Japanese experts and Tanzania project members has not been conducted regularly since Tanzanian project members are engaged with other works. Monitoring activities have been mainly conducted by Japanese experts.

##### Counterparts/Ownership

Ownership of the counterparts of the Project is considered to be high in the Project implementation level. However, the ownership of the management-level as well as Capacity Building and Training (CB&T) sub-division needs improvement.

#### **5. Results of Review**

##### **5-1. Relevance**

Relevance of the Project is considered to be mostly high.

The Project is consistent with the policies of Tanzania and Japan, and the needs of Tanzania follows;

##### Relevance to the Tanzanian and Japanese policies

National Water Policy (2002) as well as Water Sector Development Programme (2005-2025) are still valid at the moment. Mkakati wa Kukuza Uchumi na Kuonda Umasikini Tanzania (MKUKUTA) II (2011-2015) also includes 'Proportion of households in rural settlements provided with improved sources of water increased from 58.7% in 2009 to 65% by 2015' as operational targets. In addition, according to Water Sector Status Report 2012, Local Government Management Support, which is one of strategic sub-components to achieve the target in RWSS component revised in Restructuring Plan in 2010, includes this Project and capacity development of Local Government Authorities (LGAs) and Regional Secretariat (RS).

Japanese Assistant Policy to Tanzania announced in June, 2012 prioritizes the development of water facilities and human resources development for their O&M.



### Relevance to the needs of the country and target group

Water Sector Status Report 2012 identifies low WSDP implementation capacity of LGAs and RS. Capacity development of WSDP implementation agencies is still required.

### Appropriateness of the project design

Logic of the Project is considered to be appropriate. Choice of the pilot project areas which have received other assistance from JICA is also considered to be appropriate. However, the project design based on the condition that the CD plans are to be implemented without problem is considered to be inappropriate since WSDP basket fund was disbursed as planned even at the design stage.

### **5-2. Effectiveness**

The likelihood of achieving the Project Purpose is considered to be low at the moment. For, it is expected that CWSD's assistance for the implementation of the CD of DWSTs, RWSTs and BWOs across mainland of Tanzania would not be provided during the Project due to inadequate budget for implementation of the existing CD plans.

There is a causal relationship between the Project Purpose and the Outputs. The achievement of the Outputs has contributed to setup of the CD training system. However, inadequate WSDP budget has prevented actual implementation of the nationwide training.

### **5-3. Efficiency**

The efficiency of the Project is considered to be low by the time of the Mid-term review.

The quantity, quality and timing of the inputs from both Japanese side and Tanzanian side are considered to be mostly appropriate except the Project member from Tanzanian side. It was pointed out that some Project members from Tanzanian side have not participated in the Project activities as expected. M/M of Japanese experts was increased by 1.23 M/M since PIM usage survey to improve PIM has been added as a new activity for Output 1.

With regard to the counterpart training in Japan, the participants to the training have been actively participating into the implementation of the Project. For example, the participants from the pilot RWSTs have actively managed the Project activities in the pilot district.

Considering that the activities under the Output 3 have not been implemented as planned and the Output 1 and 3 have not reached the achievement level as planned by the time of the Mid-term review, it assumes that the Inputs have not been utilized efficiently for implementation of the activities.



Inadequate budget for implementation of CD plans by DWSTs, RWSTs and BWOs, financially infeasible CD plans as well as administrative setup, in which CWSD/BWO and DWSTs/RWSTs are under different ministries, are considered to be inhibiting factors for achieving the Outputs.

#### **5-4. Impact**

At the moment, the likelihood of achieving the Overall Goal is difficult to be judged using the existing indicators because the indicator 1 is not appropriate for the indicator and the indicator 2 needs to set the target when WSDP phase 2 is available.

No other impact has been identified at the moment.

#### **5-5. Sustainability**

Sustainability of the Project is considered to be low considering the below aspects.

##### Policy and institutional aspect

Policy and institutional aspect is considered to be high. WSDP (2005-2025) will still support continuation of the achievement of the Project after the end of the Project.

##### Organizational, financial aspect

Organizational aspect is considered to be low. Management level of Tanzanian project member has not been actively involved in the Project while Capacity Building & Training department of CWSD, which is a key project member for the Project, has not been actively participating in the Project. Prime Minister's Office-Regional Administration and Local Government (PMO-RALG) which is responsible for DWSTs and RWSTs is not fully involved in the Project.

Financial aspect is considered to be low. Inadequate financial source for implementation of CD plans as well as financially infeasible CD plans has made it difficult for DWSTs, RWSTs and BWOs to conduct training under their CD plans and also made it difficult for CWSD to provide assistance to them on the implementation of CD plans.

##### Technical aspects

Technical aspect is considered to be mostly high. CWSD is considered to have mostly enough technical knowledge to provide assistance for implementation of training by DWSTs, RWSTs and BWOs.

#### **6. Conclusion**

By the time of the Mid-term review, the activities for producing the improved RUWASA-CAD training package (Output 1), complementary training materials (Output 2) and the first draft of training consultation guide (Output 3) as well as the training in the pilot areas have been conducted. However, mainly due to inadequate budget for the implementation of CD plans by DWSTs, RWSTs and BWOs as well as financially



infeasible CD plans, the achievement level of the Output 1 and 3 are low

In order to achieve the Outputs and the Project Purpose by the end of the Project, financially feasible CD plans, which is able to be implemented with limited budget from WSDP, need to be developed at first in the latter half of the Project.

Regarding the evaluation by five criteria, the relevance of the Project is considered to be mostly high while the efficiency, effectiveness and sustainability of the Project are considered to be low by the time of the Mid-term review. The impact of the Project is difficult to be judged by using existing indicators.

#### **7. Revision of Project Design Matrix (PDM)**

As a result of the mid-term review, it was recognized that the PDM should be revised for the better implementation of the Project. The Team suggests the following changes to be made, and the revision of PDM to be finalized and agreed as soon as possible;

- i) Change in Narrative Summary of Output 1
- ii) Change in Objectively Verifiable Indicators of Overall Goal, Project Purpose, Output 1-4
- iii) Change in Activities in accordance with the change in Objectively Verifiable Indicators
- iv) Change the name of CWSD and DWST to RWSD and CWST

For details, see ANNEX 10.

#### **8. Recommendations**

##### **(1) Implementation of CD plans by DWSTs, RWSTs and BWOs (Action: Japanese experts and MoW)**

- i) In order to make sure that CD plans by DWSTs, RWSTs and BWOs are to be implemented by the limited budget, it is recommended that the Project support revising them to be financially feasible. During the Project implementation period, it is recommended to support the revision of CD plans of the pilot areas of the phase 1 and phase 2.
- ii) In order to make sure that the WSDP budget for implementation of CD plans allocated in 2012/13 and 2013/14 of MTEF 2012/13-2015/16 is to be disbursed as planned, it is recommended to make a follow-up of the disbursement in WSDP Technical Working Group.
- iii) In order to make sure that DWSTs, RWSTs and BWOs are to utilize the allocated budget for the training among various activities under their CD plans, it is recommended that MoW makes an official guidance to secure some budget for the training.
- iv) In order to make sure that the budget for the training is available, it is recommended to broaden the financial channel from which the DWSTs, RWST and BWOs are to be able to obtain the budget for the training. Their revenue apart from WSDP budget is the first financial channel to be considered.



v) It is recommended to produce the nationwide resource inventories in order to start the training in the pilot areas.

(2) Ownership of Tanzanian project member (Action: Tanzanian project member)

- i) More active participation from Tanzanian project members, especially management level and CB&T, is necessary for the project to achieve the Project Purpose.
- ii) It is highly recommended for management level of Tanzania project member to cooperate with the implementation of the Project.
- iii) It is highly recommended to allocate one staff from CB&T, which monitors the implementation of CD plans by DWSTs and RWSTs, in the Project implementation.

(3) Administrative setup for implementation of the Project (Action: Tanzanian project member)

- i) It is highly recommended to include a representative from Water Sector Coordination Group of PMO-RALG as a project member since PMO-RALG involvement is to make it easier for CWSD to contact with DWSTs and RWSTs.
- ii) It is highly recommended to include WRD in the project design of this Project since BWOs are under WRD.

(4) Monitoring Performance of COWSO in the pilot areas (Action: Japanese experts, Tanzanian project member and DWSTs in pilot areas)

- i) Although the indicator for the performance of COWSO is proposed to be removed from the indicators due to difficulty to set such indicator, it is recommended for the Project to monitor the performance of COWSO in the pilot areas.



## ANNEX 1. Schedule of the Mid-term Review

Date		Mr. Yasunori NAKAMURA	Mr. Toshio MURAKAMI/ Mr. Jun MORIGUCHI
1	6-Jan Sun	PM ; Narita ( 22:00 ) →Dubal ( 05:00 )	
2	7-Jan Mon	Dubal ( 10:15 ) →Dar Es Salaam ( 14:55 )	
3	8-Jan Tue	AM: Meeting w/JICA Tanzania Office and JICA Experts PM: Courtesy Call on MoW	
4	9-Jan Wed	AM: Document Review PM: Interview (Ms. Kinbute, Ms. Mbowe, Mr. Mweta)	
5	10-Jan Thu	AM: Interview (Ms. Kirenga, Ms. Mbowe, Mr.Mweta)	
6	11-Jan Fri	AM: Interview (Mr. Baraka)	
7	12-Jan Sat	Drafting of Mid-Term Review Report	
8	13-Jan Sun	Drafting of Mid-Term Review Report	
9	14-Jan Mon	AM: Drafting of Mid-Term Review Report PM: Meeting with Japanese experts	PM : Narita ( 22:00 ) →Dubal ( 05:00 )
10	15-Jan Tue	AM : Drafting of Mid-Term Review Report 18:00-19:30 Meeting w/ Survey Mission	PM : Dar Es Salaam (14:55) 18:00-19:30 Meeting w/ Survey Mission
11	16-Jan Wed	9:30-10:00 Meeting w/JICA Tanzania Office 11:00-11:30 Courtesy Call on MoW PM: Meeting w/ JICA Expert	9:30-10:00 Meeting w/JICA Tanzania Office 11:00-11:30 Courtesy Call on MoW PM: Meeting w/ JICA Expert
12	17-Jan Thu	AM:Dar Es Salaam (11:00)→Mwanza (12:30) PM:Move to Nzega	AM:Dar Es Salaam (11:00)→Mwanza (12:30) PM:Move to Nzega
13	18-Jan Fri	Site Visit in Tabora (Sikonge District, Uyuni District)	Site Visit in Tabora (Sikonge District, Uyuni District)
14	19-Jan Sat	AM:Move to Mwanza PM:Mwanza (20:40)→Dar Es Salaam (22:10)	AM:Move to Mwanza PM:Mwanza (20:40)→Dar Es Salaam (22:10)
15	20-Jan Sun	AM: Drafting of Mid-Term Review Report PM: Drafting of Mid-Term Review Report, Internal Meeting	AM: Drafting of Mid-Term Review Report PM: Drafting of Mid-Term Review Report, Internal Meeting
16	21-Jan Mon	AM: Discussion w/CP on Mid-Term Review Report PM: Discussion w/CP on Mid-Term Review Report	AM: Discussion w/CP on Mid-Term Review Report PM: Discussion w/CP on Mid-Term Review Report
17	22-Jan Tue	AM: Discussion w/CP on Mid-Term Review Report 14:00-16:00 Discussion with GIZ on CD plan & implementation	AM: Discussion w/CP on Mid-Term Review Report 14:00-16:00 Discussion with GIZ on CD plan & implementation
18	23-Jan Wed	AM: Discussion w/CP on Mid-Term Review Report PM: Preparation for JCC and Mid-Term Review Report Printing	AM: Discussion w/CP on Mid-Term Review Report PM: Preparation for JCC and Mid-Term Review Report Printing
19	24-Jan Thu	AM: JCC, Signing of M/M PM: Reporting at JICA and EoJ	AM: JCC, Signing of M/M PM: Reporting at JICA and EoJ
20	25-Jan Fri	AM: Report writing PM: Dar es Salaam ( 16:45 )	AM: Report writing PM: Dar es Salaam ( 16:45 )
21	26-Jan Sat	AM : Dubal ( 02:55 ) PM : Narita ( 17:20 )	AM : Dubal ( 02:55 ) PM : Narita ( 17:20 )

## ANNEX 2. List of Interviewees

	Organization	Position	Name
1	Japanese Experts	Institutional Capacity Development	Tomohiko Kato
2	MoW	Acting Director, RWSD	Gibson Kisaka
3		Assistant Director, RWSD	Mary Mbowe
4		Principle Engineer, RWSD	Allen Mweta
5		Community Development Officer, CB&T, RWSD	Dialista Kirenga
6		Hydrogeologist, WRD	Diana Kimbute
7		Assistant Director, AHRMD	Mujungu Baraka
8		RWST, Tabora	Regional Water Advisor
9	DWST, Uyui	District Executive Director	Hadija Maulidi
10	DWST, Uyui	Acting District Water Engineer	Faustine Misango
11	DWST, Sikonge	District Water Engineer	Jaffar Wibonela
12	COWSO, Uyui	Chair person	Sudi A. Awadhi
13	COWSO, Sikonge	Chair person	James Malogo

**Annex I: Project Design Matrix (PDM<sub>1</sub>)**

Project Title : Rural Water Supply and Sanitation Capacity Development Project Phase 2 (RUWASA-CAD 2) in Tanzania  
Target Group : Staff of CWSD, staff of BWO, members of RWST and DWST in Tanzania

Project Period : XXX \*1, 2011 – XXX, 2014 (3 Years) Version No. 1  
Date : May 23, 2011

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<p><b>Overall Goal</b> Capacity of the District Water and Sanitation Teams (DWSTs), Regional Water and Sanitation Teams (RWSTs), and Basin Water Offices (BWOs) in Tanzania to manage rural water supply and sanitation (RWSS) services is enhanced.</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>The number of RWSS services implemented by DWSTs, RWSTs and BWOs receiving financial assistances from the WSDP budget attains to more than XX in each district across the mainland of Tanzania in 2018.</li> <li>The percentage of populations using improved water supply is increased from XX% to YY% in the districts of pilot areas by 2018.</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>Sector Performance Report</li> <li>Sector Performance Report</li> <li>Sector Performance Report</li> </ol>	<p>The policy and direction on the RWSSP are not drastically changed by the government of Tanzania.</p>
<p><b>Project Purpose</b> Assistance for the implementation of the capacity development (CD) of the DWSTs, RWSTs, and BWOs across the mainland of Tanzania provided by Community Water Supply Division (CWSD) of MoW is enhanced.</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>Satisfaction ratings of the DWSTs, RWSTs, and BWOs attain to more than XX% on average regarding the assistance for the CD provided by the CWSD.</li> <li>The number of guidance on the RWSS services for the communities in the pilot areas is increased by the DWSTs.</li> <li>The number of guidance on the RWSS services for the DWSTs in the pilot areas is increased by the RWSTs.</li> <li>The number of guidance on the RWSS services for the DWSTs and RWSTs in the pilot areas is increased by the BWOs.</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>Questionnaire survey to DWSTs, RWSTs, and BWOs</li> <li>Project Progress Report</li> <li>Project Progress Report</li> <li>Project Progress Report</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>The budget and personnel necessary for the RWSSP are continuously allocated by the government of Tanzania.</li> </ol>
<p><b>Outputs</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>The RUWASA-CAD training package is improved and adopted by MoW.</li> <li>Complementary training materials adaptive to the natural environment and socioeconomic situation in each area of Tanzania are developed.</li> <li>Supporting system of the training of CWSD of MoW for DWSTs, RWSTs, and BWOs across the mainland of Tanzania is strengthened.</li> <li>The approach for improving the water supply situation in the communities is enhanced in the pilot areas.</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1-1. The percentage of the DWSTs, RWSTs, and BWOs utilizing the training modular guide*2 distributed by the CWSD of MoW attains to more than XX% across the mainland of Tanzania.</li> <li>1-2. The RUWASA-CAD training package is incorporated into the Annex of the RWSSP Program Implementation Manual (PIM).</li> <li>2-1. The number of prepared complementary materials attain to XX.</li> <li>2-2. Satisfaction ratings of the participants in the training attain to more than XX% on average regarding the complementary training materials.</li> <li>3-1. The percentage of the DWSTs, RWSTs, and BWOs utilizing the training resource inventories attains to more than XX% across the mainland of Tanzania.</li> <li>3-2. The training consultation guide is completed by November, 2013.</li> <li>3-3. The number of the DWSTs, RWSTs, and BWOs receiving facilitations by the CWSD regarding the budget allocation for the RWSS-related training in their training plans is increased across the mainland of Tanzania.</li> <li>4-1. The number of the communities in the pilot areas receiving guidance by the DWSTs is increased.</li> <li>4-2. The percentage of the communities in the pilot areas increasing the collection ratio of user fees for water-supplying facilities attains to more than XX%.</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1-1. Project Progress Report</li> <li>1-2. PIM</li> <li>2-1. Questionnaire survey to participants in the training conducted in activity 4-2</li> <li>3-1. Project Progress Report</li> <li>3-2. Training consultation guide</li> <li>3-3. Project Progress Report</li> <li>4-1. Monitoring sheet prepared in activity 4-3</li> <li>4-2. Monitoring sheet prepared in activity 4-3</li> </ol>	

\*1 Project Period and some Objectively Verifiable Indicators are tentatively set as XX and YY. That will be determined at JCC considering the result of baseline survey (activity 0).

PA

<p><b>Activities</b></p> <p>0 Conduct the baseline and impact surveys.</p> <p>1-1 Study the state of implementation of the Water Sector Development Program (WSDP) and practices according as the training package developed by the MoW and RUWASA-CAD (RUWASA-CAD training package) in the target districts of RUWASA-CAD Phase 1.</p> <p>1-2 Review and verify RUWASA-CAD training package based on the result of the activity 1-1.</p> <p>1-3 Modify the training package in consideration of user-friendly aspects.</p> <p>1-4 Convene a workshop to disseminate the institutional arrangement and linkage of the DWSTs, RWSTs, and BWOs as well as the modified version of the RUWASA-CAD training package to the DWSTs, RWSTs, and BWOs across the mainland of Tanzania and development partners.</p> <p>1-5 Facilitate the training package to be institutionally used as a main tool for making and implementing training plans.</p> <p>2-1 Categorize each area of Tanzania based on the regional peculiarity from the perspective of natural environment, socioeconomic situation, etc.</p> <p>2-2 Select the pilot areas different from the regional peculiarity of the RUWASA-CAD Phase 1 based on the criteria established.</p> <p>2-3 Prepare a training curriculum and complementary training materials adaptive to the regional peculiarity.</p> <p>2-4 Compile the information and data extracted from the training in the pilot areas (activity 4-2).</p> <p>2-5 Update the training curriculum and complementary training materials for the nationwide expansion.</p> <p>3-1 Improve the nationwide version of a training resource inventories on the basis of the training resource inventories of the RUWASA-CAD Phase 1.</p> <p>3-2 Study the training plans prepared by the DWSTs, RWSTs, and BWOs as well as clarify the issues.</p> <p>3-3 Prepare the training consultation guide necessary for the formulation and implementation of the training plans as well as modify and update the training consultation guide through the activity 4-1.</p> <p>3-4 Improve and prepare the annual training management plan of the CWSD, including budgetary measures, schedule, etc. necessary for the implementation of the training plans by the DWSTs, RWSTs, and BWOs.</p> <p>3-5 Monitor and supervise the training conducted by the DWSTs, RWSTs, and BWOs in the mainland of Tanzania according to the training management plan.</p> <p>3-6 Improve the operational manual of the training management based on the above procedures.</p> <p>3-7 Conduct a workshop to disseminate the training consultation guide, the annual training management plan, and the operational manual to the WSDP stakeholders.</p> <p>4-1 Provide consultations for the DWSTs, RWSTs, and BWOs in the pilot areas to conduct the training based on their training plans.</p> <p>4-2 Conduct training for the DWSTs, RWSTs, and BWOs in the pilot areas based on the above training consultations.</p> <p>4-3 Assist the DWSTs to monitor and guide the operation and maintenance of the water-supplying facilities in the communities of the pilot areas.</p> <p>4-4 Compile and document the experiences, outcomes, and lessons learned extracted from the monitoring activities in the communities for the nationwide expansion in Tanzania.</p> <p>4-5 Conduct a workshop to disseminate the operation and maintenance of the water-supplying facilities and the above monitoring results for the DWSTs across the mainland in Tanzania.</p>	<p><b>Inputs</b></p> <p>Japanese side</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. Experts             <ul style="list-style-type: none"> <li>• Chief Advisor/Community Water Supply</li> <li>• Institutional Capacity Development</li> <li>• Operation and Maintenance of Water-supplying Facility</li> <li>• Hydrogeology</li> <li>• Others as necessary</li> </ul> </li> <li>2. Training of counterpart personnel in Japan and/or the Third Countries</li> <li>3. Provision of machinery and equipment</li> <li>4. Local expenses for the project activities which are not covered by Tanzanian side             <ul style="list-style-type: none"> <li>- Expenses for workshops</li> <li>- Teaching materials for training</li> </ul> </li> </ul>	<p>Tanzanian side</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. Personnel             <ul style="list-style-type: none"> <li>Project Director</li> <li>Project Manager</li> <li>Counterparts</li> </ul> </li> <li>2. Provision of the project offices and facilities necessary for the project implementation</li> <li>3. Local expenses for the project activities             <ul style="list-style-type: none"> <li>- Running costs for project office and facilities such as electricity, water, etc.</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. Natural disasters, such as droughts, floods, etc., do not give a profound effect to the project activities.</li> <li>2. The main staff of CWSD capacitated by the Project continues working for the CWSD.</li> </ul> <p>Pre-condition</p>
--	--	--	---

\*: The training modular guide is the comprehensive user guide for the RUWASA-CAD training package, and each training course is conducted on the basis of this guide.

A1-23

A3



## ANNEX 5 List of Japanese Experts

No.	Original Plan			Actual		
	Name	Title	M/M as of the Mid-term review (-Dec. 2012)	Name	Title	M/M as of the Mid-term review (-Dec. 2012)
1	Kazuyuki Sunagawa	Chief Advisor/Community Water Supply	9.0	Kazuyuki Sunagawa	Chief Advisor/Community Water Supply	7.0
2	Tomohiro Kato	Institutional Capacity Development	8.5	Yasumasa Yamazaki	Chief Advisor/Community Water Supply	2.0
3	Hiroyuki Nakayama	Hydrogeology	5.0	Tomohiro Kato	Institutional Capacity Development	8.5
4	Toshifumi Ando	Operation and Maintenance of Water Supplying Facility	7.2	Takashi Saito	Hydrogeology	5.0
5	Chiaki Tamekawa	Training Material Improvement	4.0	Toshifumi Ando	Operation and Maintenance of Water Supplying Facility	7.2
6				Chiaki Tamekawa	Training Material Improvement	4.0
7				Aya Kadokami	Community Water Supply and Sanitation Facilitation	1.23
	TOTAL		33.7			34.93

## ANNEX 6. List of Participants in Counterpart Training in Japan

Training Course	Period	Participants	Organization
Human Resources Development of Water Service	April 7 <sup>th</sup> -25 <sup>th</sup> ,2012	Amani Mafuru	RWSD, MoW
		Allen Mweta	RWSD, MoW
		Lubasa S.M	Tabora RS
		Yunus Rugeiyamu	Tabora RS
		Warioba Sanya	Mwanza RS



## ANNEX 7. Operational Expenses by Japanese side (JPY)

	1 <sup>st</sup> year (Aug. 2011-Jul 2012)	2 <sup>nd</sup> year(by Mid-term Review) (Aug. 2012-Dec. 2012)	TOTAL
Employment of Local Staff	2,113,400	1,253,000	3,366,400
Consumables	854,500	235,600	1,090,100
Traveling and traffic	2,705,700	1,713,300	4,419,000
Communication and transportation	80,200	145,200	225,400
Local training	6,544,300	2,301,200	8,845,500
TOTAL	12,298,100	5,648,300	17,946,400

## ANNEX 8. List of Tanzanian C/P at the time of Mid-Term Review

No.	Organizations	Name	Position
1	RWSD, MoW	Gibson Kisaka	Acting Director
2	RWSD, MoW	Mary Mbowe	Assistant Director
3	RWSD, MoW	Allen Mweta	Principal Engineer
4	RWSD, MoW	Dialista Kirenga	Community Development Officer
5	WRD, MoW	Diana Kimbute	Hydrogeologist





ANNEX 9. List of Activities

No.	Planned Activities	Actual Activities
Output 1	The RUWASA-CAD training package is improved and adopted by MoW.	
1-1	Study the state of implementation of the Water Sector Development Program (WSDP) and practices according as the training package developed by the MoW and RUWASA-CAD (RUWASA-CAD training package) in the target districts of RUWASA-CAD Phase 1.	<ul style="list-style-type: none"> <li>- The effectiveness survey of RUWASA-CAD phase 1 was conducted in RWSTs.</li> <li>- Continuous behavior change has been identified in most institutions supported by the phase 1.</li> <li>- Actual opportunity for O&amp;M activities of RWSS thanks to progress of WSDP has been identified as a contributing factor for such behavior change.</li> </ul>
1-2	Review and verify RUWASA-CAD training package based on the result of the activity 1-1.	<ul style="list-style-type: none"> <li>- It was found that the recommendations to RUWASA-CAD training made by the institutions were only on the management of the training; therefore it has been decided that the training package would not need major modification.</li> </ul>
1-3	Modify the training package in consideration of user-friendly aspects.	<ul style="list-style-type: none"> <li>- It was found that recommendations to RUWASA-CAD training made by the institutions were only on the management of the training; therefore it has been decided that the training package would not need major modification.</li> </ul>
1-4	Convene a workshop to disseminate the institutional arrangement and linkage of the DWSTs, RWSTs, and BWOs as well as the modified version of the RUWASA-CAD training package to the DWSTs, RWSTs, and BWOs across the mainland of Tanzania and development partners.	<ul style="list-style-type: none"> <li>- A workshop was held on June 18<sup>th</sup>, 2012 for dissemination of RUWASA-CAD project and CD consultation policy by MoW.</li> </ul>
1-5	Facilitate the training package to be institutionally used as a main tool for making and implementing training plans.	<ul style="list-style-type: none"> <li>- The Project team introduced the outline of the Project to DPs in DPG water meeting.</li> <li>- PIM usage survey is being conducted in order to know whether PIM has been actually used at WSDP implementing agencies or not and what should be improved in order for PIM to be fully utilized.</li> </ul>
Output 2	Complementary training materials adaptive to the natural environment and socioeconomic situation in each area of Tanzania are developed	
2-1	Categorize each area of Tanzania based on the regional peculiarity from the perspective of natural environment, socioeconomic situation, etc.	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Regional characteristic has been analyzed and categorized from two perspectives; Natural environment situation (geology, potential for groundwater development, water quality) and socioeconomic conditions (water supply rate, household income, population density).</li> </ul>
2-2	Select the pilot areas different from the regional peculiarity of the RUWASA-CAD Phase 1 based on the criteria established.	<ul style="list-style-type: none"> <li>- The pilot areas have been decided by using 5 criteria; year of establishment of DWST, interview preparation and filling questionnaire, status of data submission, geographical situation and communication, synergetic effects between RWSS and Japanese grant aid projects.</li> </ul>
2-3	Prepare a training curriculum and complementary training materials adaptive to the regional peculiarity.	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 5 complementary training materials adaptive to regional characteristics have been prepared; Preliminary hydrogeological Map, Investigation method in the Basement Rock Area, Health Damage Caused by Fluoride, Distribution Map of Fluoride Concentration, Socio-economic Condition on Population Density and Water Coverage</li> </ul>
2-4	Compile the information and data extracted from the	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Activities scheduled in the latter half of the Project.</li> </ul>

A1-27

	training in the pilot areas (activity 4-2).	
2-5	Update the training curriculum and complementary training materials for the nationwide expansion.	- Activities scheduled in the latter half of the Project.
Output 3	<u>Supporting system of the training of CWSD of MoW for DWSTs, RWSTs, and BWOs across the mainland of Tanzania is strengthened.</u>	
3-1	Improve the nationwide version of a training resource inventories on the basis of the training resource inventories of the RUWASA-CAD Phase 1.	- Nationwide version of a training resource inventories have not been produced.
3-2	Study the training plans prepared by the DWSTs, RWSTs, and BWOs as well as clarify the issues.	- Activities to collect CD plans developed by districts, regions and BWOs in the mainland Tanzania have been conducted. - Ten (10) CD plans for districts in the pilot regions and three (3) CD plans for regional secretariats; Tabora, Shinyanga, Mwanza have been studied. - Following issues have been identified; no description explaining the relation between the results of self-assessment and planned CD activities, CD activities only include the issues of owner organization's issues, some inappropriate components for CD activities such as house rent for staff are included, allowance for staff is included and monitoring indicators are not appropriate.
3-3	Prepare the training consultation guide for the formulation and implementation of the training plans as well as modify and update the training consultation guide through the activity 4-1.	- The first draft of the training consultation guide has been developed.
3-4	Improve and prepare the annual training management plan of the CWSD, including budgetary measures, schedule, etc. necessary for the implementation of the training plans by the DWSTs, RWSTs, and BWOs.	- All WSDP implementing institution have prepared CD plans. However, no CD training has been conducted by the time of the mid-term review due to the following problems; problems in CD plans themselves, no assistance from CWSD, a lack of training budget of WSDP implementing institutions, CD plans of DWSTs not included the training to COWSO. - CWSD has not been able to collect the information on the planned training by DWSTs, RWSTs and BWOs.
3-5	Monitor and supervise the training conducted by the DWSTs, RWSTs, and BWOs in the mainland of Tanzania according to the training management plan.	- No training has been conducted by DWSTs, RWSTs and BWOs.
3-6	Improve the operational manual of the training management based on the above procedures	- No training has been conducted by DWSTs, RWSTs and BWOs.
3-7	Conduct a workshop to disseminate the training consultation guide, the annual training management plan, and the operational manual to the WSDP stakeholders.	- Scheduled in the latter half of the Project.
Output 4	<u>The approach for improving the water supply situation in the communities is enhanced in the pilot areas.</u>	
4-1	Provide consultations for the DWSTs, RWSTs, and BWOs in the pilot areas to conduct the training based	- Consultations in the pilot areas have been conducted. - Pilot area meeting to introduce RUWASA-CAD training modular guide was held in February, 2012 while

PA

	on their training plans.	RUWASA-CAD workshop was held in June 18 <sup>th</sup> , 2012.
4-2	Conduct training for the DWSTs, RWSTs, and BWOs in the pilot areas based on the above CD consultations	- Two (2) training sessions were conducted to DWSTs, RWSTs and BWOs in the pilot areas in May-June, 2012 and October-December, 2012.
4-3	Assist the DWSTs to monitor and guide the operation and maintenance of the water-supplying facilities in the communities of the pilot areas.	- Two districts in Tabora region; Uyuni and Sikonge, have started monitoring the O&M of RWSS by COWSO.
4-4	Compile and document the experiences, outcomes, and lessons learned extracted from the monitoring activities in the communities for the nationwide expansion in Tanzania.	- Activities scheduled in the latter half of the Project.
4-5	Conduct a workshop to disseminate the operation and maintenance of the water-supplying facilities and the above monitoring results for the DWSTs across the mainland in Tanzania.	- Activities scheduled in the latter half of the Project.

A1-29



## ANNEX 10. Proposed Revision of PDM

	Where	PDM ver. 1	Revised (Proposed)	Reason
1	Target Group	Staff of CWSD, staff of BWO, member of RWST and DWST in Tanzania	Staff of <u>RWSD</u> , staff of BWO, member of RWST and <u>CWST</u> in Tanzania	-Institutional name has been changed.
2	Narrative Summary of Overall Goal	Capacity of the District Water and Sanitation Teams (DWSTs), Regional Water and Sanitation Teams (RWSTs), and Basin Water Offices (BWOs) in Tanzania to manage rural water supply and sanitation (RWSS) services is enhanced.	Capacity of <u>the Council Water and Sanitation Teams (CWSTs)</u> , Regional Water and Sanitation Teams (RWSTs), and Basin Water Offices (BWOs) in Tanzania to manage rural water supply and sanitation (RWSS) services is enhanced.	-Institutional name has been changed.
3	Narrative Summary of Project Purpose	Assistance for the implementation of the capacity development (CD) of the DWSTs, RWSTs, and BWOs across the mainland of Tanzania provided by Community Water Supply Division (CWSD) of MoW is enhanced.	Assistance for the implementation of the capacity development (CD) of the <u>CWSTs</u> , RWSTs, and BWOs across the mainland of Tanzania provided by <u>Rural Water Supply Division (RWSD)</u> of MoW is enhanced.	-Institutional name has been changed.
4	Narrative Summary of Outputs 1	The RUWASA-CAD training package is improved and adopted by MoW.	<u>'RWSS Project Cycle' and 'Training Modular Guide' are adopted by MoW and WSDP TWG.</u>	- <u>'RWSS Project Cycle' and 'Training Modular Guide'</u> are considered to be appropriate documents to be incorporated into PIM rather than RUWASA-CAD training package.
5	Narrative Summary of Output 3	Supporting system of the training of CWSD of MoW for DWSTs, RWSTs, and BWOs across the mainland of Tanzania is strengthened.	Supporting system of the training by <u>RWSD with assistance from WRD</u> of MoW for <u>CWSTs</u> , RWSTs, and BWOs <u>in</u> the mainland of Tanzania is strengthened.	-Institutional name has been changed. -Addition of WRD in accordance with administrative setup in Water sector, in which BWO is under WRD. -Include 'through the activities in the pilot areas' since the training supporting system is to be strengthened by conducting actual support in the pilot areas.
6	Objectively Verifiable Indicators of Overall Goal	1. The number of RWSS services implemented by DWSTs, RWSTs and BWOs receiving financial assistances from the WSDP budget attains to more than XX in each district across the mainland of Tanzania in 2018.	<u>1. Available funds vs. expenditure of RWSSP in districts across the mainland Tanzania (19% in 2011/12 to YY% in 2018/19)</u>	-Impossible to count and set the target for wide range of RWSS services. -Target will be set when WSDP phase 2 is available. -Available fund (Tshs.42,587,265,250), Expenditure (Tshs. 8,133,057,789)
7	Objectively	2. The percentage of populations using	2. The percentage of populations using improved	-Set the target area from the pilot areas to the

4

	Verifiable Indicators of Overall Goal	improved water supply is increased from XX% to YY% in the districts of pilot areas by 2018.	water supply is increased from 56.6% (2011) to YY% in the mainland of Tanzania by 2018/2019.	mainland of Tanzania -Set the baseline -Target will be set when WSDP phase 2 is available
8	Objectively Verifiable Indicators of Project Purpose	1. Satisfaction ratings of the DWSTs, RWSTs, and BWOs attains to more than XX% on average regarding the assistance for the CD provided by the CWSD.	1. Satisfaction ratings of the <u>CWSTs</u> , RWSTs, and BWOs attains to more than 80% on average regarding the assistance for the CD provided by the <u>RWSD with a support from WRD</u> .	-Setting the concrete target. -Institutional name has been changed. -Addition of WRD in accordance with administrative setup in Water sector, in which BWO is under WRD.
9	Objectively Verifiable Indicators of Project Purpose	2. The number of guidance on the RWSS services for the communities in the pilot areas is increased by the DWSTs.	2. <u>80% of CWSTs</u> receiving the assistance from <u>RWSD</u> during the Project implementation provide guidance on the RWSS services for the <u>COWSO</u> .	-Change the target area from pilot area to mainland of Tanzania -Institutional name has been changed.
10	Objectively Verifiable Indicators of Project Purpose	3. The number of guidance on the RWSS services for the DWSTs in the pilot areas is increased by the RWSTs.	3. <u>80% of RWSTs</u> receiving the assistance from <u>RWSD</u> during the Project implementation provide guidance on the RWSS services for the <u>CWSTs</u> .	-Change the target area from pilot area to mainland of Tanzania -Institutional name has been changed.
11	Objectively Verifiable Indicators of Project Purpose	4. The number of guidance on the RWSS services for the DWSTs and RWSTs in the pilot areas is increased by the BWOs.	4. <u>80% of BWOs</u> receiving the assistance from <u>RWSD with support from WRD</u> during the Project implementation provide guidance on the RWSS services for the <u>CWSTs</u> and RWSTs..	-Change the target area from pilot area to mainland of Tanzania -Institutional name has been changed. -Addition of WRD in accordance with administrative setup in Water sector, in which BWO is under WRD.
12	Objectively Verifiable Indicators of Output 1	1-1. The percentage of the DWSTs, RWSTs, and BWOs utilizing the training modular guide distributed by the CWSD of MoW attains to more than XX% across the mainland of Tanzania.	1-1. <u>80% of CWSTs, RWSTs and BWOs</u> in mainland of Tanzania receiving the assistance from <u>RWSD with support from WRD</u> utilize the training modular guide.	-Institutional name has been changed. -Addition of WRD in accordance with administrative setup in Water sector, in which BWO is under WRD. -Since the assistance from RWSD is provided based on the request from CWSTs, RWSTs and BWOs, it is not appropriate to set the target 'XX% among all CWSTs, RWSTs and BWOs'.
13	Objectively Verifiable Indicators of Output 1	1-2. The RUWASA-CAD training package is incorporated into the Annex of the RWSSP Program Implementation Manual (PIM).	1-2. ' <u>RWSS Project Cycle</u> ' and ' <u>Training Modular Guide</u> ' are incorporated into the Annex of PIM.	-' <u>RWSS Project Cycle</u> ' and ' <u>Training Modular Guide</u> ' are considered to be appropriate documents to be incorporated into PIM rather than RUWASA-CAD training package.

A1-31

14	Objectively Verifiable Indicators of Output 2	2-1. The number of prepared complementary materials attain to <u>XX</u> .	2-1. <u>5</u> complementary training materials adaptive to the natural and socio-economic situations in each area of Tanzania are produced.	-Set the concrete target. -Define the complementary training materials
15	Objectively Verifiable Indicators of Output 2	2-2. Satisfaction ratings of the participants in the training attain to more than <u>XX</u> % on average regarding the complementary training materials.	2-2. Satisfaction ratings of the participants in the training attain to more than <u>80</u> % on average regarding the complementary training materials.	-Set the concrete target.
16	Objectively Verifiable Indicators of Output 3	3-1. The percentage of the DWSTs, RWSTs, and BWOs utilizing the training resource inventories attains to more than <u>XX</u> % across the mainland of Tanzania.	3-1. <u>The training resource inventories are utilized in more than 12 CWSTs, 7 RWSTs and 7 BWOs in the mainland of Tanzania.</u>	-Change the target from across mainland of Tanzania to selected areas because the CD plans will be able to be revised in the selected areas only considering the remaining project period.
17	Objectively Verifiable Indicators of Output 3	3-3 The number of the DWSTs, RWSTs, and BWOs receiving facilitations by the CWSD regarding the budget allocation for the RWSS-related training in their training plans is increased across the mainland of Tanzania.	3-3. <u>More than 12 CWSTs, 7 RWSTs and 7 BWOs in the mainland of Tanzania receive facilitations by the RWSD with support from WRD regarding the RWSS-related training in their training plans.</u>	-Institutional name has been changed. -Addition of WRD in accordance with administrative setup in Water sector, in which BWO is under WRD. -Change the target from across mainland of Tanzania to selected areas because the CD plans will be able to be revised in the selected areas only considering the remaining project period.
18	Objectively Verifiable Indicators of Output 4	4-1. The number of the communities in the pilot areas receiving guidance by the DWSTs is increased.	4-1. <u>Monthly Report is regularly submitted by all COWSOs receiving guidance by pilot CWSTs.</u>	-Set new indicator -Submission of Monthly Report means the guidance by the DWSTs reach COWSO.
19	Objectively Verifiable Indicators of Output 4	4-2. The percentage of the communities in the pilot areas increasing the collection ratio of user for water-supplying facilities attains to more than <u>XX</u> %.	4-2. <u>Satisfaction rating of support by CWST to COWSO attains to more than 80%.</u>	-Set new indicator because other factors which cannot be controlled by this Project affect the collection rate of user fee.
20	Activities of Output 1	-	1-6. <u>Conduct PIM utilization study</u>	-On-going added activity
21	Activities of Output 3	3-4. Improve and prepare the annual training management plan of the CWSD, including budgetary measures, schedule, etc. necessary for the implementation of the training plans by the DWSTs, RWSTs, and BWOs.	3-4. Improve and prepare the annual training management plan of the <u>RWSD</u> , including budgetary measures, schedule, etc. necessary for the implementation of the training plans by the <u>CWSTs, RWSTs, and BWOs in the selected</u>	-Institutional name has been changed. -Target of the annual training management plan of RWSD has been changed from Tanzania mainland to the selected areas.

			<u>areas.</u>	
22	Activities of Output 3	3-5. Monitor and supervise the training conducted by the DWSTs, RWSTs, and BWOs in the mainland of Tanzania according to the training management plan.	3-5. Monitor and supervise the training conducted by the <u>CWSTs</u> , RWSTs, and BWOs <u>in the selected areas</u> according to the training management plan.	-Institutional name has been changed. -Target of monitoring and supervision has been changed from Tanzania mainland to the selected areas.
23	Activities of Output 3	-	3-8. Support revising the training plan in the selected areas	-Action added by Recommendation
24	Others	All CWSD and DWST	RWSD and CWST	-Institutional name has been changed





タンザニア国村落給水事業実施・運営管理能力強化プロジェクト（フェーズ2）中間レビュー調査 評価グリッド

評価項目	評価設問		特記事項	必要なデータ	情報源	データ収集方法	質問票送付先	
	大項目	小項目						
1. 実績の検証	1-1. 上位目標の達成度（見込み）	村落給水・衛生（RWSS）事業に係る全国の県給水衛生チーム（DWST）、州給水衛生チーム（RWST）及び流域管理事務所（BWO）の村落給水・衛生事業に関する運営管理能力が強化される。	1. WSDP予算の配賦を受けたDWST、RWST及びBWOによる事業実施件数が、2018年までにXX件以上になる。		関係者の意見	質問票回答 インタビュー結果	質問票 インタビュー	専門家 水省
			2. パイロット地域の県における改善された水源を利用できる人口の割合が、2018年までにXX%からYY%に増加する。		実績 関係者の意見	質問票回答 インタビュー結果	質問票 インタビュー	専門家 水省
1-2. プロジェクト目標達成度	水省コミュニティ給水局によって提供される全国のDWST、RWST及びBWOを対象とした能力開発支援が強化される。	水省コミュニティ給水局によって提供される能力開発支援にかかるDWST、RWST及びBWOの満足度が、平均でXX%以上に達する。			活動実績 関係者の意見	進捗報告書 質問票回答 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家 水省
		2. パイロット地域のコミュニティを対象としたDWSTの指導件数が増加する。	アウトプット4の指標4-1の言い換え。	活動実績 関係者の意見	進捗報告書 質問票回答 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家 水省	
		3. パイロット地域のDWSTを対象としたRWSTの指導件数が増加する。		活動実績 関係者の意見	進捗報告書 質問票回答 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	パイロット地域のDWST、RWST及びBWO	
		4. パイロット地域のDWST及びRWSTを対象とした流域管理事務所の指導件数が増加する。		活動実績 関係者の意見	進捗報告書 質問票回答 インタビュー結果	質問票 インタビュー		
1-3. アウトプットの達成度	1. RUWASA-CAD研修パッケージが改善され、水省によって採用される。	1-1. コミュニティ給水局によって配布された研修モジュールガイドを活用する全国のDWST、RWST及びBWOがXX%以上となる。			活動実績 関係者の意見	進捗報告書 質問票回答 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家 水省
		1-2. RUWASA-CAD研修パッケージのRWSSP事業実施マニュアル（PIM）添付資料に採用される		活動実績 関係者の意見			資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家 水省
	2. 各地域の自然環境及び社会経済状況に適応した研修の補完教材が開発される。	2-1. XXの研修補完教材が作成される。			活動実績 関係者の意見		資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家 水省
		2-2. 研修補完教材の内容に関する研修受講者の満足度がXX以上を達成する。			活動実績 関係者の意見			
	3. 全国のDWST、RWST及びBWOに対する水省コミュニティ給水局の能力開発支援体制が強化される。	3-1. 研修リソースインベントリを活用するDWST、RWST及びBWOの割合が全国でXX以上となる。			研修を受けたKEWI講師の数 関係者の意見		資料レビュー 質問票 インタビュー	
		3-2. 2013年11月までに研修指導要領を完成させる。			活動実績 関係者の意見			
	3-3. 村落給水・衛生関連研修に必要な予算配分及び研修の実施方法に関して、コミュニティ給水局のファシリテーションを受ける全国のDWST、RWST及びBWOが増加する。			研修を受けた受講生の満足度 関係者の意見			専門家 水省	

評価項目	評価設問		特記事項	必要なデータ	情報源	データ収集方法	質問票送付先	
	大項目	小項目						
	4. パイロット地域のコミュニティにおける給水状況の改善に向けた取り組みが強化される。	4-1. パイロット地域でDWSTによる指導を受けるコミュニティの数が増加する。		活動実績 関係者の意見		資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家 水省 パイロット地域のDWST、RWST及びBWO	
		4-2. 給水施設の料金徴収率が向上したパイロット地域の対象コミュニティの割合がXX%以上となる。		活動実績 関係者の意見				
	1-4. 投入の実績	日本側 1. 専門家 2. 本邦研修 3. 機材 4. ローカルコンサルタント費	投入の質、量、時期は計画通りか。	専門家に依頼	投入の質・量・時期	進捗報告書 質問票回答 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家
		タンザニア側 1. C/P 2. 専門家執務室及び什器	投入の質、量、時期は計画通りか。	カウンターパートに依頼	投入の質・量・時期	進捗報告書 質問票回答 インタビュー結果		MWI
2. 実施プロセスの検証	2-1. 活動の進捗状況	活動は計画通りに実施されているか。			活動の達成度・達成時期	PDM PO 進捗報告書 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家 水省
		2-2. プロジェクトマネジメント体制	プロジェクトのマネジメント体制に問題はないか。	カウンターパートの数・配置・能力は適切であったか。		関係者の意見	質問票回答 インタビュー結果	質問票 インタビュー
			プロジェクト運営実施上のモニタリングは適切に行われているか（頻度・方法）		関係者の意見	質問票回答 インタビュー結果	専門家 水省	
			JCCIはプロジェクトの運営上、十分に機能しているか。		関係者の意見	質問票回答 インタビュー結果	専門家 水省	
		専門家とC/Pの関係は良好か。	C/Pと専門家のコミュニケーションは十分にとれているか。		関係者の意見	質問票回答 インタビュー結果	専門家 水省	
	2-3. 相手国実施機関の主体性	カウンターパートは主体的にプロジェクトの実施に取り組んでいるか。	水省コミュニティ給水局、BWO、RWST、DWSTはプロジェクトの活動状況を十分に把握しているか。		関係者の意見	質問票回答 インタビュー結果	質問票回答 インタビュー	専門家
			カウンターパートのプロジェクト活動への参加は活発か。		活動実績 関係者の意見	進捗報告書 質問票回答 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家
水省コミュニティ給水局、及びパイロット地域のBWO、RWST、DWSTは、プロジェクト活動に対する十分な予算を確保しているか。				予算 関係者の意見	関連文書 質問票回答 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家	

評価項目	評価設問		特記事項	必要なデータ	情報源	データ収集方法	質問票送付先	
	大項目	小項目						
3. 妥当性	3-1. 必要性	プロジェクト目標とタンザニア側のニーズは一致しているか。	水省コミュニティ給水局による全国のDWST、RWST及びBWOを対象とした能力開発支援は、タンザニアの水セクターにおけるニーズと一致しているか。		関連文書 関係者の意見	WSDP 質問票回答 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家 水省
	3-2. 優先度	上位目標とタンザニアの開発政策の間に整合性はあるか。	DWST、RWST及びBWOの村落給水・衛生事業に関する運営管理能力の強化は、MKUKUTALI、WSDPと合致しているか。		関連文書 関係者の意見	貧困削減戦略 質問票回答 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家 水省
		プロジェクトと日本の援助政策の間に整合性はあるか。	プロジェクトは、日本の対タンザニア国別援助計画（事業展開計画を含む）に合致しているか。		日本の援助政策	国別援助計画 事業展開計画	資料レビュー	-
	3-3. 手段としての適切性	プロジェクトのアプローチは適切だったか。	プロジェクトは、全国のDWST、RWST及びBWOを対象とした能力開発支援を強化する適切なアプローチととっているか。		活動実績 関係者の意見	進捗報告書 質問票回答 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家 水省
			パイロットプロジェクトの地区の選択は適切か。		活動実績 関係者の意見	進捗報告書 質問票回答 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家 水省
		日本の技術の優位性はあるか。	JICAの過去の村落給水事業の経験が活かされているか。		関係者の意見	関連文書 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家
	3-4. その他	他ドナーとの協力関係はどうなっているか。	他ドナーとの協力体制において相乗効果はあるか。		他ドナーの協力体制	進捗報告書 質問票回答 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家 水省
	事前評価以降の政策・経済・社会等の変化はなかったか。	プロジェクトの実施、運営等に影響を与える政策・経済・社会などの変化はあるか。		タンザニアの政治・経済・社会・開発協力等の情報	進捗報告書 質問票回答 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家 水省	
4. 有効性	4-1. プロジェクト目標の達成予測	プロジェクト目標の達成状況はどうか。	プロジェクト目標が達成される見込みはあるか。	1. 実績の検証で確認	活動実績 プロジェクト目標の達成度	進捗報告書 質問票回答 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家 水省
		プロジェクト目標指標の設定レベルは適切か。		8. その他で確認	関係者の意見	PDM 質問票 インタビュー結果		専門家 水省
	4-2. 因果関係	アウトプットはプロジェクト目標の達成に貢献しているか。	アウトプットの達成がプロジェクト目標「水省コミュニティ給水局によって提供される全国のDWST、RWST及びBWOを対象とした能力開発支援の強化」の達成に貢献するか。		活動実績 アウトプットとプロジェクト目標の因果関係 関係者の意見	進捗報告書 PDM 質問票回答 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家 水省
	4-3. 促進・阻害要因	プロジェクト目標達成に対する貢献・阻害要因はあるか。	プロジェクト活動に甚大な影響を与える自然災害は発生していないか。（外部条件）		関係者の意見	質問票回答 インタビュー結果	質問票 インタビュー	専門家 水省
プロジェクトで育成されたコミュニティ給水局の担当職員は同局で業務を継続しているか。（外部条件）					質問票回答 インタビュー結果		専門家 水省	
その他にプロジェクト目標達成に対する貢献要因・阻害要因はあるか。				関係者の意見	質問票回答 インタビュー結果	質問票 インタビュー	専門家 水省	

評価項目	評価設問		特記事項	必要なデータ	情報源	データ収集方法	質問票送付先	
	大項目	小項目						
5. 効率性	5-1. アウトプットの達成度	各アウトプットは計画通り達成されているか。	1. 実績の検証で確認	アウトプットの達成度・時期	進捗報告書 質問票回答	資料レビュー 質問票	専門家 水省	
		各アウトプットの指標は適切か。	8. その他で確認	関係者の意見	インタビュー結果	インタビュー		
	5-2. 因果関係	アウトプットを産出するために十分な活動か。			活動実績 関係者の意見	進捗報告書 質問票回答 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家 水省
		アウトプットを達成するために投入の質、量、タイミングは適切か	専門家の派遣人数、専門分野、派遣時期は適切か。		専門家派遣実績 関係者の意見	進捗報告書 質問票回答 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家 水省
			供与機材の種類、量、設置時期は適切か。		納入機材リスト 関係者の意見	進捗報告書 質問票回答 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家 水省
			本邦研修の分野、研修内容、研修時期は適切か。		研修員受入実績 関係者の意見	進捗報告書 質問票回答 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家 水省
		タンザニア側のC/P配置、予算配分、予算執行は適切か。		C/P配置状況 プロジェクト経費 関係者の意見	進捗報告書 質問票回答 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家 水省	
	他のJICAのスキームや他の援助機関との連携	他のJICAスキームとの連携や他の援助機関との連携による成果があるか。		機材納入実績 関係者の意見	進捗報告書 質問票回答 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家 水省	
前フェーズで育成された人材の活用	フェーズ1で育成された人材の活用をしているか。		関係者の意見	質問票回答 インタビュー結果				
5-3. 効率性の貢献・阻害要因	効率性の貢献要因、阻害要因はあるか。	アウトプットの産出に対する貢献・阻害要因はあるか。		関係者の意見	進捗報告書 質問票回答 インタビュー結果		専門家 水省	
6. インパクト	6-1. 上位目標の達成見込み	投入・成果の実績、活動の状況から、上位目標の達成は見込まれるか。		1. 実績の検証で確認	活動実績 関係者の意見	進捗報告書 質問票回答 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家 水省
		上位目標の設定指標は適切か。		8. その他で確認	関係者の意見	質問票回答 インタビュー結果	質問票 インタビュー	専門家 水省
		プロジェクトは上位目標を達成するための活動を含めているか。			関係者の意見	質問票回答 インタビュー結果	質問票 インタビュー	専門家 水省
		上位目標の達成を阻害する要因はあるか。			関係者の意見			専門家 水省
	6-2. 因果関係	上位目標とプロジェクト目標は乖離していないか。			関係者の意見	質問票回答 インタビュー結果	質問票 インタビュー	専門家 水省
		プロジェクト目標から上位目標に至るまでの外部条件は、現時点においても正しいか。また、外部条件が満たされる可能性は高いか。			関係者の意見	質問票回答 インタビュー結果	質問票 インタビュー	専門家 水省
	6-3. 波及効果	上位目標以外の正負の効果・影響は見られるか。また、負の影響があれば、それを除去または軽減する方策は取られているか。			関係者の意見	進捗報告書 質問票回答 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家 水省

評価項目	評価設問		特記事項	必要なデータ	情報源	データ収集方法	質問票送付先	
	大項目	小項目						
7. 持続性	7-1. 政策・制度面	プロジェクト終了後も政策的支援が続くか。	DWST、RWST及びBWOの村落給水・衛生事業に関する運営管理能力強化は引き続きタンザニア国水セクターの優先課題として位置づけられるか。		水セクター政策関係者の意見	WSDP関係者の意見	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家 水省
		7-2. 組織・財政面	プロジェクト組織はプロジェクト終了後も維持されるか。	水省コミュニティ給水局、DWST、RWST及びBWO、コミュニティは、プロジェクト終了後もその役割が維持されるか。		水法2009関係者の意見	関連文書 質問票回答 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー
	プロジェクト終了後も財源は確保されているか。		水省コミュニティ給水局及びDWST、RWST及びBWOがRUWASA-CAD研修を実施するために必要な予算は確保されているか。		水セクターの予算 水セクターの戦略 関係者の意見	専門家 水省 パイロット地域の DWST、 RWST及び BWO		
			DWST、RWST及びBWO及びコミュニティがRWSSの新規事業及び運営管理を行う上で必要な予算は確保されているか。		関係者の意見		質問票回答 インタビュー結果	質問票 インタビュー
	7-3. 技術面	プロジェクトのカウンターパートは十分な知識を有しているか。	研修リソースは研修を行う十分な知識を持っているか。		活動実績 関係者の意見	進捗報告書 質問票回答 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家
			全国レベルで研修を実施する十分な研修リソースがあるか。		活動実績 関係者の意見	進捗報告書 質問票回答 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家
			研修リソースを適切に活用できる知識を水省コミュニティ給水局は持っているか。		水省の戦略 関係者の意見	関連文書 質問票回答 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家 水省
		プロジェクト終了後も技術面での知識は継続するか。	水省コミュニティ給水局は、RUWASA-CAD研修に係る知識を維持する何らかの戦略はあるか。		水省の戦略 関係者の意見			専門家 水省
		プロジェクトで供与した機材の維持管理は適切か。			機材の状況 関係者の意見	質問票回答 インタビュー結果	質問票 インタビュー	専門家 水省
	7-4. 社会・文化・環境面	社会、文化、環境面において持続的効果を阻害する要因はあるか。			関係者の意見	質問票回答 インタビュー結果	質問票 インタビュー	専門家 水省

評価項目	評価設問		特記事項	必要なデータ	情報源	データ収集方法	質問票送付先
	大項目	小項目					
8. その他	8-1. 軌道修正の必要性	PDMの指標の修正に妥当性はあるか。	上位目標の指標1に関して、WSDPからの予算措置を指標に含めることは妥当か。	関係者の意見	PDM 質問票 インタビュー結果	資料レビュー 質問票 インタビュー	専門家 水省
			上位目標の指標1及び2に具体的な目標を加えることは妥当か。	関係者の意見	PDM 質問票 インタビュー結果		専門家 水省
			上位目標にコミュニティレベルの村落給水・衛生事業の運営維持管理に関する指標を加えることは妥当か。	関係者の意見	PDM 質問票 インタビュー結果		専門家 水省
			プロジェクト目標の指標1に具体的な目標を加えることは妥当か。				
			プロジェクト目標の指標2はアウトプット4の指標4-1の言い換えとなっているが削除することは妥当か。	関係者の意見	PDM 質問票 インタビュー結果		専門家 水省
			プロジェクト目標の指標3, 4に関して、指標をパイロット地域に限定することは妥当か。	関係者の意見	PDM 質問票 インタビュー結果		専門家 水省
			プロジェクト目標の指標に、全国のDWST、RWST及びBW0の指導に関する指標を追加することは妥当か。	関係者の意見	PDM 質問票 インタビュー結果		専門家 水省
			アウトプット1の指標1-1に関して、具体的な目標を加えることは妥当か。	関係者の意見	PDM 質問票 インタビュー結果		専門家 水省
			アウトプット2の指標2-1及び2-2に関して、具体的な目標を加えることは妥当か。	関係者の意見	PDM 質問票 インタビュー結果		専門家 水省
			アウトプット3の指標3-1及び3-3に具体的な目標を加えることは妥当か。	関係者の意見	PDM 質問票 インタビュー結果		専門家 水省
			アウトプット4の指標4-1及び4-2に関して具体的な目標を加えることは妥当か。	関係者の意見	PDM 質問票 インタビュー結果		専門家 水省
			アウトプット4の指標に関して、パイロット地域における給水施設の新規建設、運営維持管理に係る目標を加えることは妥当か。	関係者の意見	PDM 質問票 インタビュー結果		専門家 水省
			アウトプット4の指標に関して、プロジェクト目標の3, 4を移動して加えることは妥当か。	関係者の意見	PDM 質問票 インタビュー結果		専門家 水省
	その他、PDMの修正が必要と思われる箇所があるか。		関係者の意見	PDM 質問票 インタビュー結果	質問票 インタビュー	専門家 水省	